健康教育

|刊行10周年記念号|

$\stackrel{\wedge}{\approx}$	健康教育	10周年記念号に寄せて2
公	祝	辞3
公	健康教育	10年の歩みを顧みて3
☆	肝油研究	の進歩の跡を顧みる 5
¢	随	想(17篇) · · · · · · · · · 7
公	大気汚染	地域における学童の保健について17
☆	学校給食	栄養報告からみたビタミン類の摂取状況について…22
公	成增幼稚	園の誕生23
公	下たい長	の早見表について26
¥	健康と安	全と情操27
公	本校健康	教育について25
A	父母だ	£ \$ 930



『健康教育』10周年記念号に寄せて

取締役社長 薬学博士 河 合 友 彦

『健康教育』は故会長河合亀太郎によって発刊されまして、回を重ねること37、ちょうど今回は満10周年に相当いたし、ここにその記念号を出すにいたりましたことは、まことに喜びに堪えません。

この間,各方面皆様のご指導ごべんたつに助けられまして、今日までスクスクと成長し、内容も充実してまいりましたことを深く感謝しております。

故会長が創刊の辞に『国を興す基は教育,教育の大本は子供を健康に育成することにあると信ずる』と述べ、また、誌名も『健康教育』と題し、題字も自ら揮毫した遺志を思うとき、これが継承に当っている私としてはまことに胸を打つものがあります。

近年学校給食の普及、栄養の改善等によりまして学 童の体位は素晴らしく向上してまいりました。しかし 40年度の学校保健統計書に示された学童のムシ歯の高 率、年齢とともに増加する近視、幼稚園・小学校低学 年に見られるへんとう腺肥大などの疾病異常、あるい は39年度学校給食における児童,生徒の栄養摂取状況 調査によるビタミンAとCとの不足など。

ことに体位の向上に対し体力の不振があげられていますが、これは運動鍛練の不足によるものだといわれています。栄養と鍛練は健康増進に必要な車の両輪にあたりますが、とくに鍛練については、年齢に応じてその時機を失わぬようつとむべきだという重要問題もございます。

本誌も今後こんな問題ととりくみ, 斯界の学者専門 家にご執筆をお願いしたり, その実践に当って効果を あげていらっしゃる先生方のご投稿をお頼みしたり, また試験場, 研究所などの貴重な統計資料なども掲載 させていただいて, 皆様方のご参考に供したいと考え ています。

なにとぞ従前に倍しご指導とごべんたつを賜わり同 時にご愛読くださることを衷心からお願い申しあげる 次第でございます。

[随想] 健康教育10周年に寄せて	〔随	想〕	健	康	教	育	10	周	年	12	寄	せ	T
-------------------	----	----	---	---	---	---	----	---	---	----	---	---	---

				(3	工十百	到順)	
国民栄養協会理事長	有 本	邦太郎	劳働科学研究所	高	木	和	男
お茶の水女子大学教授	稲 垣	長 典	日本学校薬剤師副会長東京都学校薬剤師会長	永	Ш	芳	男
日 本 学 校 医 会 長 日本学校保健会理事長	岩尾	泰次郎	駒沢学園教授	原			実
国立栄養研究所部長	岩尾	俗之	国立公衆衛生院	船	Ж	幡	夫
九州大学学長	遠城寺	宗 徳	北海道学芸大学教授	細	井	敬	\equiv
国立栄養研究所長	大 礒	敏 雄	東京都立川保健所長	水	野	俊	夫
東北大学教授	小 柳	達 男	国立公衆衛生院	富	坂	忠	夫
日本女子大学教授	桜 井	芳 人	文部省体育局学校保健課	元	山		Œ
慶応義塾大学教授	鈴木	安 恒					



[祝辞]

健康教育刊行十周年にあたって

中 男 東京都教育委員会委員長

本誌が創刊されるとき、その趣旨に賛同した私は、所期の目的を達せられるようにと希望して祝辞を呈 Lton

その後本誌が、常に故会長河合亀太郎博士の「教育の大本は、子供を健康に育てることにあると信じま す」と提唱された理念を堅持して、ここに10年の歩みを続け、その充実した毎号の内容をこの目で確め得 たことは何よりもうれしく,心からなる敬意を表する。

健康を保ち、長寿を全うすることは何人もが念願するところであり、国民が心身ともに健全であること は一国興隆の基盤であることを思うとき、本誌が、健康教育推進の大使命に立って、ますます発展するこ とを希望して、ここに重ねて祝辞を述べる次第である。

「健康教育」10年の歩みを顧みて

慶応義塾大学医学部教授

原 医学博士 島 進

1. 発刊とその後の発展

われらの「健康教育」の創刊10年後の今日、当時を 省みてみると、数多くの思い出があって、それらを今 はなつかしく思い浮べている。

第1巻は昭和31年12月10日発行になっている。この 「健康教育」の発刊に思いいたられた当時の河合製薬 株式会社取締役会長,薬学博士,河合亀太郎氏は,そ の発刊の辞のなかに,次のように述べておられる。

「健康増進に奉仕することは私の経験と専攻の立場 から年来の宿願でありました。今後「健康教育」とい う雑誌を順次に発行して健康教育上の諸問題について 専門家の諸研究,学校教育の実践とその施設,図譜, 統計等を盛りあげて先生方の参考資料に供し、利用を されていた。この風潮は東京だけではなくて、全国各

御願いすることを得ますことは、誠に喜びに堪えない 処であります。」

このような河合亀太郎会長の決意は、それから、年 に3-4回の割に発行されて、昭和41年の最後の号と して36を数えてきたのである。そして、その間、会長 が希望されたように, 「学童教育の一助」となってき たのであると私は信じている。

まず、本誌名であるが、それについてはあとでも述 べるとおり、当時のわれわれの周囲には、学童の健康 を養護することが必要であるという考え方が支配的で あった。結核感染児を中心とする虚弱児の身体を養護 しながら、所定の教育課程を進めようという養護学級 が小学校に編成され、また、東京だけをとっても、当 時の市立または区立の養護学園が主に海浜地域に施設 地にも及んでいた。はじめは結核感染児からとりあげ ちれたのであるが、後には、視力や聴力が減少してい る児童や、また、これらとは異なる原因によるいわゆ るひ弱な児童も加えられて、それらを虚弱児と称して 一括して、その養護を行なう施設になっていったので あった。

これらの事情のために、その関係者たちは養護協会 を作り、そこから河合製薬株式会社その他の援助をえ て、「養護教育」誌を発刊していた。

ところが、この社会的運動は戦争の影響を強くうけて、不幸にも中断してしまった。

そこへ、河合亀太郎博士のまえのようなご決心とご発言であったのである。誌名について論議はなかなか盛んであったが、それがついに「健康教育」にきまった。昭和31年の当時でも、この健康という言葉はまだ国民になじまないものであった。まだ、学童養護の思想なり用語が関係者の頭のなかに尾をひいている時代であった。

今日からみれば、健康教育という誌名なり言葉は全くなじんだものであり、むしろ、当然なものであるとされるであろう。こんなことをここに述べるまでもないと考えられる方々が甚だ多いことであるう。しかし、時代思想の発展のあとがここにもみられるのである。すなわち、学童の心身を養護するということからそれを養護する消極的な面ばかりでなくて、そのうえに、積極的に学童の心身の健康を増進しなければならないということに発展して、この両者をあわせて、学童の健康の世話ということになったのが現在の考え方である。

うえにあげたような時代にあって、この領域における新しい刊行物としての誌名を「健康教育」と決定したのは、河合博士の英断と先見があずかって力があった。私などは、それをきいて幾何かの抵抗を心に感じたことがあったのを思い出すのである。

本誌がとりあげてきた専門家の諸研究の結果による 論文は、健康教育のほとんど全領域にわたっていると いってもよい。それらを号を追ってあげてみよう。

日本人の栄養状態、環境衛生、学校給食、学校医と 学童の保健、ビタミンAの作用、学童と災害、子ども の心理的な生態、精神と健康、健康について、ビタミ ンA所要量と摂取量、腸内細菌巣と栄養、新入学児童 の保健管理と指導、水泳場の衛生、学校薬剤師の在り かた、栄養調査とビタミン、中学・高校生の栄養、む し歯の授学、十年後の日本人の体位、肝油の効果、近 視と学校身体検査,日本の寄生虫病,耳鼻咽喉科の病気,健康教育の方法,ビタミンと健康,色盲と進学・就職,学童特に就学児童の栄養と健康,オリンピックと保健体育,オリンピック東京大会の成果からみた日本人の体力と栄養,環境衛生,児童生徒の発育と栄養

これらとともに、学校教育の実践における小学校を 中心とする諸学校の学校長、教諭、養護教諭などの諸 氏の健康教育についての経験と計画、また、文部省、 各地の教育庁の行政の任にあたられる方々の意見や指 示が各号の頁数の半ばを占めている。

健康優良校と健康優良児童についての記事は、創刊 号から毎年とりあげられていることは特筆に値するこ とであろう。

ここで、毎号を集めたものをみていると、本誌が歩んできた道を明確に知ることができて感慨にたえぬものがある。そして、これらは健康教育の全領域にわたっていることを考えて、十年の積み重ねは軽々に考えてはならないことを思うのである。これまでの全号を集めてみると、それが、そのまま健康教育についての一巻の書であり、信頼をおける指導書であるということができる。これは、私の新しい発見であった。

2. 河合亀太郎先生のこと

先生は昭和34年7月に83才の長命を保たれた後、逝去されたのであるが、その葬儀に際して、日本薬剤師協会会長、参議院議員、高野一夫氏が先生の御霊前に捧げられた弔辞によると、先生の研究と事業は肝油に関する問題で終始されたということである。日本産鱈肝油の研究によって薬学博士の学位を得られた後は、各種の肝油製剤の製造に従事され、病弱者の栄養補給、学童の体位向上に貢献されている。

また,多年にわたり日本薬剤師会会長として,中央衛生会,日本薬局方調査会,医薬制度調査会などの政府審議会,調査会の委員をつとめられ,さらに,東京薬科大学の理事長として薬学教育に尽力されている。

学童の肝油による体位向上については、かなり先年 から関心をもたれ、また、そのための援助協力を続け ておられた。

戦前には、高塚、秋場、花岡博士らの小児科医を中心とする養護教育誌の発行に努められた。その後、戦後の社会の混乱期を経て、昭和31年に本誌を創刊されたときには、本誌名の「健康教育」の題字に筆を残されている。それは毎号の表紙にある。

そして, 表誌の主張として.

- 1. 教育の基調は健康にある。
- 2. 栄養に関する正しい知識を普及する。
- 3. 食生活の改善により国民体位の向上をはかる 以上の3カ条を掲げたのであった。

私は当時から先生の主張と実践とを知っていたし、 先生の決意の堅いことも推察することができたので、 この仕事に協力してきたのである。

先生の側面の一つを語るものとして、先生と高山樗牛との出合いがある。その詳細なことは、本誌13号に石谷熊夫氏の筆によって述べられているが、先生と明治の文豪樗牛とのこの関係も肝油がとりもつ縁であったことは、肝油ひとすじに貴い生涯をおくられた河合先生だけに感動を残す話である。先生の題字による高山樗牛碑は今も平塚市の杏雲堂分院構内にある。

3. 将来への希望

さきにも述べたように、これからは健康増進の時代である。世界の国民の健康の目標として、WHO(世界保健機関)は、身体的にも、精神的にも、さらに社会的にも完全によい状態であって、病気をもっていないとか、病弱でないとかいうだけのものではないとしている。それが、積極的健康である。

本誌が「健康」を誌名にかかげ、それについての「教育」を志すものである以上は、本誌の実際的活動が、

この積極的健康を志向するものでなければならないことはいうまでもない。

そして、この健康がますます複雑化してゆく世界およびわが国の社会の発展と、それに応ずるための生活の内容が要求するものになってきたことも否定しえない。

一方,医学と衛生学の学問的進歩も他の諸科学に伴って急速である。10年前のわれわれの知識と技術は、 今日のそれらにくらべて格段の前進があるのに驚くほかないのである。これからの10年の進境はさらにその速さを加えるであろう。

このような社会の情勢の速かな前進に対処して、わ が本誌の編集とその内容にも大いなる飛躍を期待した い。

本誌の主張のうちの健康についての正しい知識の給源はますます拡大しつつある。それに応じた生活の改善についての方策もこれまでのものを乗りこえたものがなければならない。

初等教育だけをとってみても、本誌の読者層の希望 と要求とは、その質において、また、その量において ますます増加してゆくものであろう。それらを卒直に 述べ、知らせることは本誌にたいする愛情の表現であ るといわなければならない。

これらの点を、個人として、本誌によせて、編集陣 のご苦心に敬意を表しつつ、ますます、ご健闘される ことを願いたい。

肝油研究の進歩の跡を顧みる

― *健康教育。 刊行10周年に際して―

河合研究所長 農学博士 吉 田 正 信

当社が学童、生徒の健康増進に資するためビタミンA、D補給の仕事を始めてからすでに35年の歳月が経過した。この間A、Dに関する研究は長足の進歩を遂げ、今日学問的根拠にもとづいてA、Dを確実に、容易に、しかも経済的に摂取し得るようになった。ここに肝油が薬用に供せられて以来の沿革の概要を記載す

ることとした。

古い時代から用いられて効果をあげて来た薬剤には 科学的にその根拠が明らかにされるまでに非常に長い 年月を要したものが少なくない。肝油も医療に用いら れた歴史は極めて古いが,これからビタミンA,Dが 発見されたのは50年ほど前のことである。 クル病の治療に英国で肝油が使用されたのは今から 200年も前のことであり、夜盲症に牛の肝臓が有効な ことの知られたのは更に古く紀元前500年ころといわ れる。

1822年ころには、肝油の使用がスカンジナビヤ、英国からオランダを経て西欧全般に広まり、クル病、結核、栄養不良などに卓効のあることが認められた。

日本に肝油が伝わったのは、100年以上も前のことである。1880年(明治13)には肝油の製造が北海道で開始され、肝油の薬効が次第に認識されて普及を見るに至った。1904年(明治37)ころ小児に多数の服疾が発生し、これを肝油で治療したという。1908年(明治41)ころには、水蒸気を用いてタラ肝臓を煮熟して油を採取する本格的な肝油製造が北海道、樺太で実施され、品質のよい肝油が生産されるようになったが、なお特異臭味があって服用し難く、また、胃腸障害など副作用が避けられなかった。

河合亀太郎博士が肝油のこれら欠陥を除き、品質の 安定な、吸収容易な、服用しやすい固形の肝油乳剤を 発明したのは1911年(明治44)のことで、肝油ドロッ ブという名称で発売された。当時ドイツに液状の肝油 乳剤があったが、固形の肝油製剤は世界で最初のもの であった。

1913年(大正 2)米国の Me Collum その他の人々が、精製した餌でネズミを飼うとタラ肝油、バターを加えない場合動物が生長できないことを観察し、動物の生長に必要な油に溶ける因子の存在を発見して、これを脂溶性Aと呼んだ。後にこれをビタミンAと命名した。他方1919年に英国の Mellamby は、肝油中にクル病に有効な因子の存在を発見した。これがAと異なるビタミンであることが明らかになってDと命名された。かくして肝油の薬効はその含有するA、Dにもとづくことが明らかにされるに至った。

1923年(大正12)関東大震災直後、本所区緑町に河 合研究所が創設された。当時A, Dに関し世界の関心 が高まって、特に英国、日本でその研究が盛んになっ てきたころである。肝油の薬用としての利用はA, D の研究に基礎をおいて行なわればならぬとの見地から 研究所ではまず動物実験による日本産肝油のAの研究 に着手した。次いで日本産肝油の本態を明らかにする ため生薬学的研究を行ない、従来工業用にのみ向けら れていたスケソウタラ肝油の薬用としての用途を開発 した。進んでサメ、マグロ、カツオその他の魚の肝油 の研究を行ない、また肝油製造法の発明、肝油製剤の 改良, ビタミンA, Dの安定化, 肝油からA, Dの濃縮など, 創立以来40数年主として肝油およびA, Dに関する研究に従事して現在に至っている。

さて、A、Dの化学的研究は、発見以来世界各国で 競って行なわれ、1931年(昭和6)にAおよびその母 体のカロチンの化学構造が、スイスの Karrer によっ て決定され、純粋なAの結晶も製出され、1947年(昭 和22)に、スイスで人工的に合成に成功した。

一方Dにおいても、紫外線照射の抗クル病性効力の発見によって、植物成分のエルゴステロールの紫外線 照射によって D が生成されることが判明し、1931年 (昭和6) に、ドイツの Windaus によって純結晶が つくられ、その化学構造が明らかにされた。

A, Dの化学的研究の進歩と共に、その栄養上の重要性が広く認識され、肝油のA, D給源としての利用も急速な進展をした。日本は世界の有数な肝油生産国としてA, D供給に大きな貢献をしてきた。

当社は、1932年(昭和7)に、発育期の栄養に対するA、Dの重要性に鑑みて、学童への肝油剤補給の事業を開始した。第2次世界大戦の拡大に伴って肝油がすべて軍需に向けられて、この事業は中絶の止むなきに至ったが、戦争終了後第一にこれを復興し、引きつづきその普及に努めて今日に及んでいる。

戦後A, Dの作用機構に関する研究も活発に行なわれ、人体におけるその重要性が明確にせられつつある。 また英米等で人体のA所要量の研究が行なわれ、わが 国でも1946年(昭和21)経済安定本部から栄養所要量 が発表され、その中にAの所要量が示されている。こ れは数次の改訂が行なわれて現在にいたっている。ま た、日本人の摂取不足の対策として、食品強化など補 給に多大の努力が払われてきた。

食糧事情の好転に伴って日本人の栄養摂取状況は著しく改善されてきたが、今日もなお食生活における欠陥の一つはAの不足であることが、戦後、毎年行なわれている厚生省の国民栄養調査の成績などから明らかである。

今日も、また将来も、日本人の保健上の大切な問題 の一つはA、Dの十分な補給であるといえる。多年肝 油の仕事に従事してきたわれわれは、ビタミンA、D の研究並びにその補給の実際面に、さらに一層の努力 をして行きたいと考える次第である。

[随 想] 健康教育刊行十周年に寄せて

体力と栄養

有本邦太郎

さきごろの東京オリンピック大会が一つのきっかけ となって、いま国民体力づくり運動が全国的に展開さ れている。それは、近年国民の体格は向上したが体力 のほうは必ずしもこれにともなわず、その一つのあら われがオリンピック大会の結果にしめされたというの である。

体力とは何を指すかという、その定義となると少々 めんどうではあるが、これを平易にいえば、身長や体 重など形にあらわれたものを体格といい、これに対し て握力や跳力、背筋力など機能としてあらわされたも のを体力というと、こう解釈すればよいであろう。

さて体力を増強するには何が重要であり、どうすればよいか、これにはさまざまな因子があり方法があるとおもうが、食物、栄養が基盤となることにまちがいはない。というのは、すぐれた体力を発揮するにはすぐれた筋の発育がなければならないし、十分なエネルギーの補給を必要とする。そして、これらはいずれも栄養の適否と関係があるからである。

もちろん、十分な栄養とともに鍛れんを十分やって 筋力をやしなわねばならない。こう考えると、栄養の 改善によって体格は向上したが、鍛れんが十分でなかったので身長や体重など、見かけの形は大きくなった が、機能のあらわれとしての体力が十分えられぬというのかもしれない。この意味では体育やスポーツが重要である。しかし、まえにのべたように、体格をつく るにも鍛れんをおこなうにも栄養が必要であるから食物、栄養が土台になることはまちがいがない。

体力づくり運動としてみんなが体操をやるというす

すめ、これは誰でもまたどこでもできる簡易な鍛れんの方法としてよいことであるが、同時に食物、栄養のことを考えればならない。エネルギー源としてのカロリーを例にとってみても、その強度や実施時間に応じて消費量が多くなり、それだけ多く供給しなければならない。また筋を発達させるためにはより多くの蛋白質を必要とし、ビタミンや無機質についてもそれぞれの理由によってより多くあたえられねばならぬ。鍛れんを十分にし精神力を以てすれば体力がえられるなどの考え方は誤りである。

体育やスポーツと栄養がはなればなれでは目的が達せられず、それは恰も車の両輪のように一つになってはたちかねばならない。体力づくり運動にしても、ともすればどちらかに偏することがあり、体操さえやればよいとか、栄養さえよければよいという見方やそうした印象をあたえることがあるが、これは慎まねばならぬことだとおもう。

運動の不足や歩きたらぬのは大方の人々はそれを自 覚することができるが、栄養の不足や不均衡はそれを 知るのは難かしく、空腹でさえなければそれで栄養が 足り、鍛れんすれば体力がつちかわれるものと考える むきがないではない。この意味からは体力づくりには 鍛れんも必要であるが、栄養に留意することが比重が 高いとおもわれる。

(医博 国民栄養協会理事長)



現在日本の中堅層となっている多くの人々は甘味不 足の戦中戦後の時期にあって、あの甘い「肝油ドロッ ブ」のお世話になった方々ばかりである。そしてあの 甘味のない時代の、あの甘い味を心の奥深く残されて いることであろう。この「肝油ドロップ」のおかげで 食糧不足時代にもかかわらず、ひどいビタミンA不足 にもならずに、混乱した日本の再建という困難な仕事 を遂行できたのである。

今でこそ各会社は立派な研究所をつくり、そこで研究をして、その成果は会社のためばかりでなく広く世の中に貢献しているが、河合研究所は、昔からその点に留意されて、日本国民の健康向上のために努力された。そして「健康教育」を創刊され、ここに10年を迎えられたそうである。この間に日本の栄養教育も随分進歩した。

本来,大学は教育と研究の役目があるが,そのほかに Extension の仕事も大切である。

特に家政学部のような学部では Extension の仕事も大切である。しかるに日本の大学では、一般にあまり Extension には熱心ではない。研究室の成果をできるだけ世の中に還元して多くの日本人を幸福にしたいものである。これは日本のみならず世界の平和に通ずる。このような仕事を河合研究所は「健康教育」を通じて10年間も行なってきたのである。

ここに「健康教育」10年を迎えられるに当り、その ご努力に対して敬意を表したい。ますますのご発展を 祈る次第である。

(農博 お茶の水女子大学教授)

学校教育の基盤

岩尾泰次郎

学校保健の推進にあたっては,学校保健計画のなか に,

- (1) 人命を尊重する態度,習慣,技術を身につける ような
- (2) 積極的に心身の健康つくりを目標とした
- (3) 体力の増強をはかる
- (4) 系統組織的な保健活動を推進する

- (5) 事故とくに交通事故を防ぐために安全教育と安 全管理の徹底を期する
- (6) 公害から児童・生徒をまもる。即ち環境衛生の 維持改善をはかる。

等々の施策を織り込むことが要請されなければならない。これ等の問題は、学校教育の基盤であり、児童・生徒の身心の健康保持増進につながる絶対不可分の要素である。これ等の問題の解決は、学校だけでは不可能である。学校と家庭と地域社会の理解と、協力なくしては、目的を達成することは至難である。むしろ、地域社会の公衆衛生の向上発展にまつところが甚大であると云ってもよい。

(医博 日本学校医会長・日本学校保健会理事長)

健康投資 岩尾裕之

世間一般の人々は、投資といえば、蓄財をふやすための手段であったり、将来のための学歴への支払いであったり、ということと考えている。だから自分や家族が、健康に暮すための投資などということは考えもしない。まして、国民が健康であるための投資を、国家も資本家もしようとはしない。まことになげかわしいことである。

こんなお話を、河合亀太郎先生からうかがったこと がある。私が栄養研究所で若者グループに属していた ころだから、随分と以前のことである。

こんなお考えから、肝油をもって国民の健康を勝ち とろうとしておられたのだろう。

「健康教育」という名の冊子が10周年をむかえるそうで、まことに月日のたつのは早いものだ。それなのに、国を左右する政治家達は、いまもって、健康の何んたるかを知らない。

健康を得、それを保つためには、それ相応の投資が必要であることを知らない。まことになさけないことである。

健康投資の必要を、ますます強調されて、次の 10

年, 100年を,「健康教育」の発展のためつくされる ことをお祈りする。

(医博 国立栄養研究所応用食品部長)

私と河合製薬

遠城寺宗徳

私が河合製薬と関係を持つようになったのは、昭和 22~3年ころと思う。

当時の、同社九州出張所長に矢野君という熱心家がいて、私の部屋によく来ていろんな話をして、いつとはなしに仲よしになった。

当時,私は九大小児科部長であり,福岡県学校保健 会の会長もしていた関係上,学童の保健には特に熱を 入れていたころで,矢野君は私の協力者としてこの方 面によく尽力してくれた。

以来,河合製薬が九州地方の学校保健に尽された貢献には、今もって感謝しておる次第である。殊に,山間へき地の学童の栄養状態がよくないので,その開発を指示したところ,矢野君は採算を無視して努力した。今では見違えるようによくなった。

河合の講演会に、あるいは実地指導に各地を回わった。阿蘇の一夜も今に思い出される。

東京の本社にも伺って、河合博士にもお目にかかったことがある。一生を児童の健康増進に奉仕した崇高な学者であったが、逝去されたとのこと、哀情にたえない。数年前、国は勲三等をもってその功にむくいたそうであるが、もっともっと大きな勲功であったように思う。

健康教育誌は、この河合博士の意を体して、発刊以 来10年になるそうであるが、一層のご発展を祈り、い つまでも学童の健康増進のため努力してもらいたいと 思う。

(医博 九州大学学長)

本誌 「満 10歳」 に祝う

大磯敏雄

河合さんが、我が国学童の体位向上を願って、「健康教育」を発刊されてから、もう久しいことになるが、この間10年の蔵月が流れ、子供の発育も素晴しい伸びを示してきた。この子供の成長と、この「健康教育」とを併せて考えると、私は何か非常に深い関係があるように思われてならない。

何となれば、私は、この「健康教育」を毎号手にする度に、編者が如何に熱意を以って、学童の体位の向上を考えているかが、紙面にあふれ出ているからである。毎回必ず、その道に深い造詣のある人の筆になったものがのり、その上、実践家ともいうべき、学校の先生方の貴い体験が掲載されていて、通り一べんの健康雑誌とは違った真剣な学究と実践と熱意にあふれていることが読み取れるからである。

私は、本誌が体裁は薄くとも、その内容の厚いことをかって、本誌の到着を待つ一人となっていることは確かだ。その意味において本誌10周年記念を大いに祝福するとともに、更に統刊の計画があるときいて大いに頼もしく、更に期待する次第である。

どうか日本の学童と共に、本誌も益々すくすくと成 長することを希って、「健康教育」発刊10周年のお祝 いといたします。

(医博 国立栄養研究所長)

片々草

※ 健康―長寿は、生きとし生ける者の願いである。 その尊い生命が、交通事故、火災焼死、登山遭難、 誘かい殺人などで消えていく。

いたましき記録新春の目に耳に

※ 精神衛生についての教育不在は、家庭か、学校か、 社会か、それともそのすべてか。

貧しさに慣れきれず筆も折りかねて(S,O)

ビタミンA と 視力

小 柳 達 男

夜を星あかりの下で暮した原始の時代には、暗いと ころでよく目が見えないのは大変困ったことであった にちがいない。彼らは、ある食物を食べると暗いとこ ろでもよく物が見えることに気づいた。そうして、こ れを後の世の人にも伝えたいと思った。そうして、こ れをパピルス紙に書き残した。

現在記録として残る人間の知恵の最古のものは、エチプトのピラミッドの中から発見されたパピルス紙に書いたもので、紀元前1500年ころのものである。それには、夜に見えにくいときは、焼いた牛のレバーや黒羽鶏の肝を食べよと書いてある。その後といっても紀元前であるが、ギリシャの哲学者ヒポクラテスも牛のレバーをすすめている。このほうはレバーを蜜に漬けてなまで食べよと言っている。

このように、気の遠くなるような大昔に流行した夜 盲症、すなわちビタミンA欠乏症が、近代文化の繁栄 を誇る米国でもこのごろはやっているというから皮肉 である。これに気付くきっかけは交通事故である。米 国で事故死の統計をとってみたところ、車の走行距離 1億マイルについての死亡は、昼間は2人なのに、夜 間は7人である。。

そこで、これはおかしい。夜間の視力が悪いのではないかということになった。そこで、ボストン大学医学部学生151人について調べてみると、じつに55人が夜盲症であることがわかった。その原因は、このごろ米国人がビタミンAを軽視して、十分に心を配って食物の選択をしていないということになった。

これでみると、わが国で自動車事故の多いのも、ドライバーも歩行者も視力が悪いためではないかと考えられる。私が仙台のタクシーの運転手について、暗調応 (暗いところで微光を認める能力)を調べてみると半数は不良であった。また、尿中の副じんホルモンの排せつ量をみると、明らかにストレスを強く受け、疲れきっていることを示した。これでは、居眠り運転もするわけである。これに、ビタミンAおよび他のビタ

ミン投与で、このホルモンの排せつが減少し、ストレスの軽くなることを認めた。ビタミンAは、ホルモンの生産に必要なのである。また、ある人は、ビタミンAの投与だけで、ひどいまぶしさがなくなったと言っていた。

とにかく、車を運転する人も、からだを運転する人 も、ビタミンAを十分補給し正常な視力にしておいて いただきたい。これは、身のため人のためである。

(農博 東北大学教授)

人 知 の 結 晶

桜 井 芳 人

日本人の永遠の主食である米、その米に不足する栄養を如何にして補うか。一つは大豆と魚肉、一つは野菜と果物である。それでもまだ足りないおそれの濃いもの、それはビタミン類である。特にビタミンAである。

なるほど緑黄野菜と称してニンジンやホーレンソウなど色のあるものを食べることがすすめられ、これは、たしかに食卓に色彩を与えることには大きな役目を行ない、かつ、見掛けはカロチン類を供給するが、残念ながら、このカロチンはビタミン源としては役立ち難い。20%とか30%とかしか吸収されないためである。だからAは不足になりやすい。これを補うのは肝油であり、ビタミン油である。

しかし、現在ではビタミンのような微量成分の化学合成がすすみ、すべてが安価に工場で生産される。そういうものを配合して製剤もつくられている。合成されるのはもちろんAだけではない。BもCもその他もそうである。これらを健康に合うように錠剤化したのがいわゆる総合ビタミン剤であり、これを飲んでいれば、ビタミン不足に基づくあらゆる疾病から免れることができる。まさに人知の結晶である。

近ごろ生活に深く食い入ってきたラジオやテレビもまた人知の結晶である。これらを聞いたり見たりすると同様に、総合ビタミンも生活にとりいれてゆくのが文明の当然であろう。 (農博 日本女子大学教授)

本誌が意味するもの

鈴 木 安 恒

「健康教育」が創刊されてからもう10年になるとの こと、おめでとうございます。

貴誌はふつうの製薬会社の雑誌と異なり、専門外の 人達に医学知識を与え、また予防医学や更に健康増進 に役立っている点は見逃がせないことと思います。

特に日本の青少年の健康が増進され、世界に躍進す るための知識を与えておられる本誌が、ますます発展 されることをお祈り申し上げます。

(医博 慶応義塾大学医学部教授)

ものが, あわれですが, これも, いまの時代に生まれた宿命でしょう。

スモッグばかりではありません。文明というものは、 人間をなるべく自然から疎外することのようです。ま た頭脳の考え方まで、そのような方向へ向けてしまい ます。

せっかく、夏のバカンスとかいって、山や海に行く 人たちが多いのに、ここでも、日焼け止めクリームと かいうものができて、紫外線は見ごとに遮断されてお ります。

都市のビルは、まどを広くしましたが、冷房と暖房のために、窓は開かずの窓になりまして、ガラスは、スモッグを通過して来た紫外線をさらに遮断します。なお、このごろは、日光の全然はいって来ない室なども蛍光灯の普及とともに、各所に見られるようになりました。

文明は、日光を目のかたきにしているようです。 このようなとき、肝油は、少しは、人類の不安を除 いてくれる役割を果してくれると思います。

(医博 労働科学研究所)

文明の中で

高木和男

私は、日光の不足し勝ちなところに住む人々にとって、肝油の服用は、必要なことだと思っております。

昔は、日光の不足なところといえば、北陸から日本 海沿岸地方、北海道といわれていたものですが、今で は日光が十分なところの方が少なくなりました。

少なくとも、1000万の人たちが、日光の不足の下で 生活しております。なぜかならば、スモッグに悩まさ れる東京の人口は1000万人だからです。しかし、スモ ッグは東京だけではありません。川崎も、横浜も、四 日市も、阪神地方も、北九州市もすべてスモッグの下 に生活しております。

このようなところでは、日光から来る紫外線は、ス モッグの上を照らすだけで、とうてい、地上には到達 しません。こんな生活を、余儀なくされる文明という

転換期に思う

永 山 芳 男

河合製薬の「健康教育」が創刊以来10年目,その創刊は,学校保健の革新をもたらした学校保健法成立の前後でありました。また現在は後で述べますように,学校保健並びに吾々の力を尽している学校薬剤師の制度にとって重大な転換期と覚悟を新たにしているときですが,この機関紙が,この機会に,一層拡充して学校保健の向上発展にご尽力願えることは,何か不思議なご縁があるようで,まことに頼もしい次第であります。

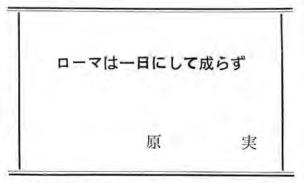
第16回全国学校保健大会が、去る11月12日から3日 間群馬県の前橋、高崎の両市で開催されましたが、こ れまでにない盛大な大会で、学校保健の前途を祝福す るように、菊花薫る暖かな小春日和が期間中ずっと続 きました。昭和26年第1回のこの大会が福岡市で開催され、前年名古屋市で開かれた最後の全国学校衛生大会の構想から脱皮し、我が国の将来をになう児童・生徒にとって一番大切な保健衛生に積極的に取り組む意気込みを示した画期的な大会でありましたが、本年の大会に比べると隔世の感があり、学校保健16年の年輪が決してむだでなかったことが判ります。本年の大会について特にその内容の変化と充実には目を見張るべきものがあり、第5回の福井大会ころまでの多分にお祭り気分、観光気分の様相はほとんど陰をひそめ、そして長年指導に力を尽された文部省学校保健課の学校保健法実施後に行なわれた青森大会ころからの構想が大会の中心ともいうべき数多くの班別研究発表の各会場においてようやく蕾を破って咲き始めました。

学校保健活動も古く帝国学校衛生会の校医中心の時 代から, 戦後学校常勤の校長, 保健主事, 養護教諭と 非常勤職員の学校医,学校歯科医,学校薬剤師等の協 力時代を経て現在の学校全体の組織活動の時代となり ました。その組織には前記6職域の人々のほかに学校 の全教職員,児童生徒はもとより、PTAおよび地域 社会の学校保健関係者, 学校保健学会等の指導者がは いり間接に各教育庁の関係官, 関係業者の協力者まで 組織の一部と考えられるぼう大な組織であります。近 ごろの大会班別の発表は学校保健組織の各メンバーが 年間を通して研究実践した貴重な成果であり、日ごろ の絶えざる学校保健活動の実績がない場合には大会へ の出席は無意義であり、また実際に出席しにくくなり ました。第1回全国学校保健大会以来16年,我が国の 学校保健も,漸く地に足の着いた本格的のものに近づ き、今後の2、3年が学校保健関係者の長年の悲願が まさに達せられようとする重大な時期と思われます。

一方学校保健組織の分野で、前会長河合亀太郎博士 以来最もおせわになった学校薬剤師についても、この 16年間はまことに大切な時期でありました。学校薬剤 節は昭和の初年から市区町村の嘱託としてありました が、都の条令で東京都全体に必置されたのは第2回仙 台大会の年であり、文部省が教育法の施行規則で学校 薬剤師の制度を作ったいわゆる学校薬剤師の法制化が 達成されたのは第4回松江大会の年であり、福島県平 市の大会の年が学校保健法成立の年であります。

しかし学校薬剤師にとっては一昨年の学校環境衛生 基準の公布とそれに併せて昨年から始まった学校環境 衛生検査器具に対する国庫補助金の実施による影響の 現われる今後の2,3年間が重大な転換期と思われま す。学校環境衛生の定期検査や,日常検査が学校保健 関係者全体の協力を得て円滑に行なわれるようにする ためには,生やさしい努力では到底達成されるもので はありません。河合製薬にとっても,学校薬剤師にと っても,また学校保健全体についても,今が最も重大 な時期であり,またやりがいのあるときでもあるよう に思われます。

(日本学校薬剤師会副会長・東京都学校薬剤師会会長)



河合製薬株式会社ご刊行の「健康教育」が、今年で 10周年を迎えると承わり、まことに歳月の流れの早さ に驚くと共に、刊行事業もますます隆盛に進展しつつ ある由を聞き大慶に存ずる次第で、誰んで祝意を表し ます。

私の永年に亘る栄養や食品に関する研究経験から云 えることは、研究ももちろん大切なことであるが、国 民栄養に実効をもたらす諸般の仕事もまた重要で、国 民の栄養知識の向上や栄養改善を目的とした教育・指 導並びに施策が大切だと信じております。栄養土養成、 学校給食、強化食品設置、国民栄養調査などは、直接 間接に栄養向上に役立つ施策であると共に、また栄養 や健康関係の教育・指導内容の雑誌や刊行物がどれほ ど知識の向上に有効な働きをしているか図り知れない ことをも認めねばなりません。

約50数年前,鈴木梅太郎先生のビタミン発見研究が 今日の栄養学を誘導した導火線となったと考えられて いるが,栄養学は実学であって基礎研究の進歩だけで 終わらせるべきものではなく,実効ある施策を実施し てこそ有意義な成果と云えます。

日本人の発育時の身長・体重の増加は、学校給食や 食糧事情好転により、戦後顕著に認められたが、現在 未た欧米人並みの伸長を期待することができず、体力 の点でも更にその増強が望まれているなど、また国民 栄養・教育指導の手は緩めらるべき段階ではなく、さ らに、今後強力に推進されねばならない状態でありま す。

「ローマは1日にして成らず」の格言どおり、この 住事には、長い時間と根気が必要だと信ずる者であり ます。

このときに当って「健康教育」10周年の記念号刊行 を行なわれますが、これを祝すると共に、さらに今後 のご発展を期待し、国民栄養向上に協力されることを 希望する次第です。

(医博 駒沢学園女子短大教授)

ではないはずである。これが正しく利用され、活用され終わるまでの仕事も含まれるべきものではなかろうか。

それには、消化、吸収から代謝の生理のことも関係 しようし、からだの健康維持のことから、さらに、心 理的、精神的な問題も関係しよう。同じたべものでも、 そのときの心理的条件、環境条件によって、その人に 対する価値はことなってくる。

物質としての機械的な食品摂取の指導だけでなく, 社会に,毎日生きている人間に対する生きた栄養指導 でありたい。

(医博 国立公衆衛生院乳幼児衛生室長)

栄養指導雜感

船川幡夫

健康教育が発刊されてから10年になるという,この間の地味な活動は、一般の栄養についての知識の向上も大きな役割を果してきたことであろう。

考えてみると、動物でも同じことであろうが、とく に、人間の場合は、人によって食事の量もずい分ちが うものである。一日量としてみた場合、一回量として でも相異のあることはいうまでもないが、摂取量が少 ないにかかわらず元気に、大きく育っている子どもも あれば、たくさんたべるのに、からだは小さい、全く 不経済な児童もある。

栄養が発育に不可欠なものであることはいうまでも ないが、さて、どれだけが最適かとなるとなかなかむ つかしい。

同時に、考えなければならないことは、そのたべも のが、どのように消化され、吸収され、からだに利用 されていくかということである。

栄養というと、すぐに、その量とか、組成だけがう かびがちであるが、口に入ってからの運命については、 案外に忘れられがちである。

たべものを供給すればそれでよいとか、栄養指導は、 適当な量と組成の食品を正しく口にはこぶまでの仕事

健康教育創刊10周年を祝う

細井敬三

「健康教育」は、児童・生徒の健康を守り、健康を 増進するという事業にたいし一定の貢献を与えてきま した。「健康教育」は創刊10周年という記念すべき年 を迎えました。これはよろこばしいことです。

ところで、この「健康教育」10周年記念号の刊行に さいして、ささやかな一文を寄せて心から喜びたいと 思います。

わたくしどもは、3年来北海道各地の小・中学校の児童・生徒の弁当を調査してきました。北海道といえば九州とならんで、まず石炭産業が頭に浮かびます。炭鉱の町美唄(びばい)市南美唄にある三井美唄炭鉱は昭和38年閉川。この南美唄の中学校1年生150名の弁当を昭和39年に調査しました。生徒のなかには、炭鉱離職者の子弟が多いです。90%の弁当は栄養上大きな欠陥があり、栄養上満足すべき弁当は、はなはだ少ないという実情です。おかずは種類が少ないが、ないものもあり、野菜がほとんどなく、栄養上バランスが全くとれていません。蛋白質と脂肪は学校給食基準に比較して半飢餓水準であり、ビタミンは不足で特にビタミンAとCは飢餓水準です。

昭和39年、北海道に大冷害が発生し、本年まで3年

つづきの冷害です。農民の低栄養水準は一層低下しました。昭和40年6月,冷害米作地帯石狩郡当別某部落のA小学校(児童数72名)の児童の弁当を調査しました。また,同年12月,石狩郡厚田村の日本海海岸に近い農村のB小学校(児童数150名)の児童の弁当を調査しました。児童は冷害農民の子弟です。農村児童の弁当調査成績は、産炭地美唄の中学生の弁当の調査成績と同じ傾向をもっています。データの一部を紹介しよう。

石狩郡農村小学生弁当調査成績

栄養量	熱	蛋	動	脂	カウ	Ł	9	4 3	/
調査 対象	量 cal	口質 g	蛋	Mi g	ルム シ mg	A LU.	B ₁ mg	B ₂	C mg
学校給食 基 準 量	650	25	10.5	11	350	875	0.6	0.6	35
A小学校 4 年 生	534	14	4.3	4	70	165	0.18	0.15	3
B小学校 4 年 生	602	18	6.5	5	92	113	0.23	0. 20	3

蛋白質は不足し、動物性蛋白質、脂肪は半餓飢水準であり、カルシウムは飢餓水準であり、ビタミンAと Cは飢餓水準であり、ビタミンB」とB。は半飢餓水準 以下です。A小学校の児童のう歯は平均5本もあり、 AとB両校の児童は一般に発育が悪く、体格は平均よ りも低いという調査成績です。

昭和40年8月、冷害酪農地帯釧路管内白糠(しらぬか)の5つの小・中学校(併置校、僻地校)の児童・生徒の弁当を調査しました。弁当は一般に劣悪であり、石狩郡の米作農村の小学校の児童の弁当と同様に憂慮にたえません。白糠は南北30数km、東西約20kmもある広い地域で農家は570余戸です。同じ白糠町でも白糠の町にある白糠小学校は学校給食を実施し、肝油製剤を使用しています。これは児童の保健上栄養上によいことです。

昭和41年,石狩郡当別町某小学校や中学校の弁当の 聞きとり調査でも、弁当は一般にバランスのとれない 低栄養水準です。当別某小学校は、河合製薬の肝油製 剤を1,2年生全員,3年生以上は希望服用させてい ます。これは学校当局が児童の保健に配慮を与えてい る現われです。

児童・生徒の弁当調査,また,わたくしたちの10年間にわたる労働者農民の栄養調査は、粗悪な弁当をとり、 粗悪な低栄養の食事を家庭でとる児童・生徒が、都市でも農村でもきわめて多数存在する、ということを指 摘しています。

以上のような、北海道で見られる児童・生徒の弁当の状態や食生活状態は、東北地方でも見られ、日本の他の地方でも見られます。このような状況の下で「健康教育」が創刊10周年を記念して、児童・生徒の低栄養水準の向上改善のために、弁当の改善のために、児童・生徒の保健のために、奮起発憤、奮闘努力されるよう望み、そして児童・生徒の健康を守り増進する事業の上で、さらにいっそう輝かしい成果を獲得されるよう望んでやみません。

(理博 北海道教育大学教授)

人命は尊重されているか 水 野 俊 夫

公衆衛生は、国民が生存の目的を達成するための健康確保が第一義的要件で、したがって、その目的達成のために健康を障害するあらゆる阻害因子を除去することにより、国民生活の安定向上を図ろうとするものである。しかるに、近時生活の複雑化につれて各種の健康障害事象が著しく増加して、人命尊重の基盤を大きく変化させようとしている。

近ごろ公衆衛生の新しい問題の一つに、公害問題が あって世論や政府でやかましく論じられている。公害 を規制するために、何らかの行政措置を強力に講ずる ために、公害基本法を制定しようという構想のようで あるが、これが成立すれば、果して国民は公害に悩ま されることなく生活の安定を楽しむことができるであ ろうか。

自動車は、もはやわれわれの日常生活の中に入り込んで、文化生活の象徴のごとく風をきって走りまわっている。これが生産される工場からは、ばい煙が空中に噴出されて大気が汚染され、廃液は有害物を含んだまま流出されて水質が汚濁されている。生産された自動車は、有害な排気ガスをまき散らしながら大気を汚染するばかりでなく、交通災害の凶器となって、多くの人命を殺傷して国民死因順位の上位にのし上ってき

たのである。

われわれは文化生活を享受できる生活環境を望んで いるのであるが、このような大気汚染や水質汚濁に取 り囲まれて生活し、生命維持のため欠くことのできな い酸素を得るために酸素ボンベの助けをかりなければ ならなかったり、飲料水で生命の危険にさらされると いうのでは、一体これが文化国家の国民生活といえる のであろうか。

人命尊重ということは、政治や行政の責務を追究することだけで解決する問題ではなく、もっと広く国民全体の問題として、公衆衛生の基盤を確立することが不可欠の条件であると思う。どんなに法律が制定されようと、いかに多額の衛生費が支出されても、国民全般の保健衛生についての知識が向上しなければ、解決の望みは全く失なわれてしまうであろう。

あらゆる公衆衛生に関係のある諸問題の解決には, 国や都道府県,市町村をはじめすべての公共的施設や 会社・工場などの責務が明確にされ,それを完全に実 践することが重要なことであるが,それよりも国民の 一人一人が自己の責務を遂行することこそ解決の基盤 であることを認識すべきであろう。

これらの知識の基礎となるものは、学校教育であり、 しかも小・中学校での義務教育にあるのであるが、現 在の学習課程の中に占める保健衛生の比重は皆無とい っても過言ではないであろう。このことは、学校教育 の当事者が、人命尊重について全く無関心であると同 時に、怠慢であると誹られても弁解の余地はないもの と思われる。

(医博 東京都立川保健所長)

継続の力を

宮 坂 忠 夫

この間,事業場における健康教育はどのように進めたらよいかというテーマの集まりで,実際に工場の衛生管理をしておられる先生が,「結局一番大事なことは,一人一人の衛生管理医が,10年でも20年でも,こ

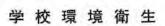
の仕事をつづけることだ」といわれました。ほんとうにそのとおりだと思います。私も公衆衛生における衛生教育の仕事にとり組んで、そろそろ20年になりますが、どんなによい仕事でも、2年や3年でやめてしまうのでは、何にもならないと考えています。

また、最近、成人の衛生知識や態度などを調べたり、 公衆衛生における衛生教育活動の評価をしてみたりし て、この仕事がどんなにむつかしいかということを再 認識しました。

そのために、へこたれてしまったとか、ときどきい われるように「成人の衛生教育は無理だ」とは思いま せんが、やはり基本になるのは、学校での健康教育だ と思います。

このようなことから、本誌がますます発展すること を心から望むものです。

(国立公衆衛生院衛生教育室長)



元 山 正

学校における環境衛生の必要なことは、古くからいわれており、それぞれの時代に応じて対策が立てられてきている。学校保健法の施行により、環境衛生についての必要性がうたわれ、更に、"学校環境衛生の基準"が保健体育審議会から答申されている。

学校環境衛生の基準は、余り他の国にはみられない もので、その内容は誇ってもよいものであろう。しか し、一方では、わざわざ環境衛生について基準を作ら なくてはならないということは、それだけ環境衛生の 状態が遅れているということになるのではないだろう か。

例えば、われわれの生活は障子の多い部屋に住み、 換気の非常に良い状態にあったものが、最近では、鉄筋 のアパート生活をする人もあり、また、住宅の形式も だんだんと閉鎖的な構造になっている。こうなると、 換気方法はもちろん暖房方法についても考えなくては ならないことはいうまでもないことである。 先日米国人から、米国では小学校に入学すると、手を洗うこと、窓を開けること、ミルクを飲むこと、野菜を食べることの4つをまず第一に教えられるという話を聞いた。窓を開けるということは、彼等の生活にとって欠くことのできないことであろう。われわれにとっても、このことは重要な問題となっていることはいうまでもないことであるが、実際にはどうであろうか。

煙突がないために, ガスストーブとか, 石油ストーブを使用していて, 当然燃焼によって発生する二酸化

炭素が室内に充満するだけではなく、時には不完全燃 焼による一酸化炭素さえ充満していることさえある。 しかも、換気について全然考慮していないという状態 さえみられる。

学校環境衛生を重要視するということは, なるべく 小さいときから環境衛生についての関心をもたせ, 将 来成人したときに, こういうことのないように, 環境 衛生についての知識・実践が身についたものになって いることを願って行なっているのである。

(薬博 文部省体育局学校保健課)

児童・生徒体位の平均値と対前年度差

(昭和41年度)

			身	長	体	重	1149	囲	座	高
区		分	平均值	対 前 年度 差	平均值	対 前 年度 差	平均值	対 前 年 産	平均值	対前年度差
		3歳	em 97.8	0.1	kg 15.3	kg 0.2	cm 53.1	0.1	56.5	cm 0.1
	幼	4	103.4	0.1	16-6	0.0	54.2	0.1	59.1	0.0
		5	108.8	0.1	18.2	0.0	55.7	0.1	61.8	0.0
		6	113.6	0.3	19.7	0.1	56.9	0.1	64.2	0-1
		7	119.1	0.3	21.9	0.1	58.9	0.1	66.7	0.1
男	N/s	8	124.3	0.3	24.3	0.2	60.8	0.0	69.1	0-1
214	d,	9	129.1	0.3	26.7	0.2	63.0	0.2	71.2	0-1
		10	134.0	0.4	29.5	0.3	65.1	0.2	73.3	0,2
		11	139.0	0.5	32.6	0.4	67.4	0.3	75.4	0.1
		12	145.2	0.5	37.0	0.4	70.1	0.2	78.5	0.2
	· ф	13	152.4	0.7	42.5	0.5	73.9	0.3	82.0	0.3
		14	158.7	0.4	48.0	0.9	77.9	0.1	85.4	0.2
		3	96.7	0.2	14.9	0.3	51.9	0.3	55.9	0.2
	幼	4	102.3	0.0	16.2	0.1	52.9	0.1	58.4	0.1
		5	107.7	0.0	17.7	0.0	54.3	0-1	61.1	0.0
		6	112.7	0.2	19.2	0.1	55.3	0.0	63.6	0.0
		7	118.1	0.3	21.3	0.1	57.2	0.2	66.2	0.1
女		8	123.4	0.4	23.7	0.2	59.2	0.1	68.7	0.1
*	2)4	9	128.8	0.4	26.5	0.3	61.4	0.2	71.1	0.1
		10	134.6	0.5	29.8	0.4	64.1	0-2	73.8	0.1
		11	141.0	0.6	34.1	0.4	67.7	0.3	77.0	0.2
		12	146.8	0.5	39.2	0.6	71.8	0.3	80.4	0.2
	r‡i	13	150.7	0.4	43.6	0.4	75.2	0.2	82.7	0.1
		14	152.8	0.3	46.8	0.3	77.8	0.3	84.0	0.0

[注] 年齢は4月1日現在の満年齢である。「対前年度差」とは、昭和41年度の平均値から昭和40年度の平均値を引いたものである。 (文部統計連報 No. 115 による)



大気汚染地域に於ける 学童の保健について

三重県立大学医学部助教授 附属塩浜病院小児科部長 医博 児 玉 武 伊 知

はじめに

昨年9月ころのことであったと記憶しているが、スモッグが塩浜地区一帯を包み、悪臭が教室と校庭に充満し、吐き気、頭痛、息苦しい、目が痛いなどと訴える児童が続出して、授業ができなくなり、全校児童がハンカチで口をおさえたり、公害マスクを着用したりして校庭の南側にある川の堤防へ避難したことがあった。これは私が校医を委嘱されている塩浜小学校の大騒ぎのあった一こまである。もちろんこんなひどいのは1年に2~3回であるが、これほどでなくても、息苦しい、目が痛い、吐き気、咽頭の不快感などを訴える児童の多い日は相当数にのぼっている。

四日市市にはこれに近い地理的条件の公害小学校が 4校ほどある。塩浜コンビナートの近くにある塩浜小 と三浜小,北部コンビナートに近接している納屋小と 東橋北小である。

四日市市の大気汚染は悪臭を伴うことが多いので, 感覚的に認識され,従って世論のたかまりもみられる けれども,他の多くの工業都市における公害は,降下 煤塵と無臭の亜硫酸ガスが主であるために感覚的には 認識されにくいと思われる。現にここに授業を続ける ことが,不可能であるほどの被害がみられる現状では 医学的な影響の有無にかかわらず対策が講じられなけ ればならない。

大気汚染の学童に及ぼす影響

大気汚染の医学的研究については、成人においては 相当明らかにされつつあって、慢性気管支炎、ぜん息 性気管支炎、気管支ぜん息、肺気腫等の回復の余り期 待できない疾患が多発し、いわゆる「四日市ぜんそく」 「東京横浜ぜんそく」等と呼ばれている。これらは呼吸機能の検査の進歩によって解明されてきたもので、 肺機能上では閉塞性障害と呼ばれている。

小児においては不明の点が多いが、これは成人のような重症例が少ないことと、小児は、元来上下気道感染症にかかりやすいために、大気汚染による気道障害との鑑別がむずかしいためであろう。従って大気汚染の影響調査の出発点は疫学的な方法しかないといってよい。

私どもの教室が、四日市市の代表的な公害地の塩浜 小学校(児童数約1100名)と、対照校として公害皆無 と見なされる桜小学校(児童数約290名)とのご協力 を得て、全校児童について昭和39年12月から昭和41年 2月までに行なった調査の結果の要点を述べる。

1) 健康調査

自覚症調査と健康診断によって明らかにされたことは、表 I に示すようにせき、あるいは、たんなどの慢性的な気道症状のある児童が多く、これらの症状のある児童を詳細に診察してみると、反復性~慢性鼻咽頭炎、反復性~慢性気管支炎、気管支ぜん息に罹患している児童が明らかに高率にみられ(図1)、女子よりも男子に多く、また年令的には低学年の方が多い。この中でも1か月に1回くらい「かぜ」をひいて治りにくく、医療によってしばらくはよいが、1週間か10日も経つと、再びせきやたんを来す反復性~遷延性~慢性気管支炎の像が多い。

2) 呼吸機能の面から

学童ではかなり正確な値を期待しうるピークフロー 値と、ヴァイタラーによる努力呼吸曲線を計測した。

表1.健康調査の成績

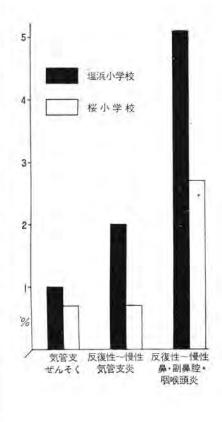
1 100	700	-	ten per	-
1,53	TEE	(1)	= 100	7
10	#	~	訴	n

学校别	塩 浜 /	小 学 校	櫻小	学 校
自覚症状別	男	女	男	女
せきばらい	38.1%	38.0%	14.0%	14.0%
のどのつまり・痛み	32.5	37.2	18.5	7.1
鼻	35.3	26.6	21.6	16.5
いきぐるしいことがある	12.0	11.8	3.4	3.3
運動後のせき	20.0	20.5	4.1	7.6
朝起床時のせき	14.9	18.8	8.2	4.6
夜就寝時のせき	14.1	17.6	6.2	4.0

父兄の観察

かぜをひきやすい	53.7%	54.6%	43.7%	38.2%
気管支炎になりやすい	25.5	24.2	12.5	14.2
熱がでやすい	27.5	22.3	13.9	13.5
鼻づまりになりやすい	23.2	29.9	22.4	22.0
よくせきばらいをする	20.5	21.4	16.8	7.2
のどが痛い	21.1	31.2	9.7	9.9
朝起きてせきがでる	24.5	21.2	14.5	9.5
夜寝つきにせきがでる	16.6	18.1	13.8	7.7
夜中にせきがでる	14.1	13.9	7.9	3.1
たんがでる	14.3	12.0	7.7	4.7

図1 健康診断による有症率



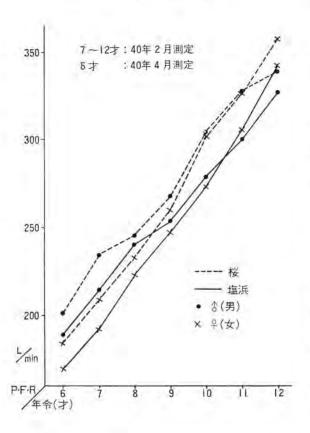
a) Peak Flow Rate (瞬間最大呼気流量) いっぱい吸いこんだ空気を最大の努力で一気に吐き出させる方法で、その瞬間に最も勢いよく吐いた空気の圧から、空気の量に換算して記録される。従ってこの値は肺の中に入った空気の量(肺活量)と、肺から口の外へ出てくるまでの気道の通過の良否との両方の因子によって左右される。水道にたとえれば、ピークフロー値は水道のジャロの圧(ジャロの太さは機械として一定)を示し、これは水原地の水量(肺活量)、送水の圧(胸筋の力)、水道管の太さ、つまり具合(気道の閉塞の有無)によってきまる。図2に示したように公害地の学童が低く、高学年の方が差が少なく、また、女子

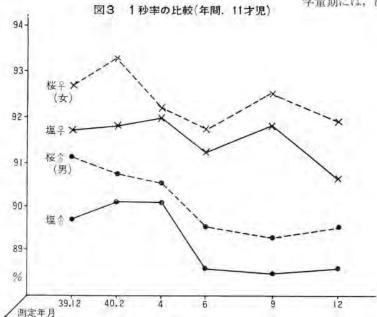
の方が差が少ないようである。

また、逐月的な追及によって、冬季の方が差が大き いように思われる。

- b) 努力肺活量 一杯吸いこんでから、最も勢いよく吐いた空気の全量であって、これには明らかな差は 認められない。すなわち肺実質の障害は少ないと思われる。
- c) 1秒率 上記の努力肺活量に対する1秒量(1 秒間に吐ける空気の量)の比でもって表わされるもの で、ピークフローで触れた気道の通道の良否を判定す

図2 ピークフロー値の比較





る資料になる。これは図3に示すように汚染地区校が 低い。

呼吸機能からの結論は大気汚染地区の学童では一般に気道の通道状態が悪くなっている閉塞性障害を示している。これは一般的な傾向ではあるが、特に一部の学童において低値が認められる。また一般に高学年になるに従って差は少なく、これは馴れの現象と淘汰によって説明できるし、また女子の方が被害が少ないという性差がうかがわれる。なお大気汚染の影響はその濃度のみでなく、降水量が少なく空気が乾燥し、かつ冷たい冬季において強調されるのではないか。

以上健康調査呼吸機能調査および連日の診療の観察 面から私は次のように考えている。

平素より降下煤塵や SO₂ あるいは SO₃ 等のガスによって気道粘膜がおかされ、異物を体外へ出そうとする働きをしている旋毛細胞の障害を来し、細菌あるいはビールス等の感染を受けやすく、これらを繰り返えしているうちに、気道粘膜の浮腫が常存するようになり、悪循環を来すのではないかと思われる。健康な人体では、各種の気道障害を来しても修復し得る機能を保持しているけれども、侵襲が長期間続いた場合とか、ある程度以上障害が進行したものとか、あるいは体質的にアレルギー等の素質をもっている人体では修復し得ない状態が現われてくるのではなかろうか。

学童期では、この機能が盛んであって、乳幼児期を 通じて反復した気道感染によって侵された気道壁が、 学童期には、漸次修復される傾向が現われているよう

> に思われるが、一部の者にはこの 傾向がみられないようである。ピークフロー値の分散図などからみ て、ほぼ 10% くらいがこの適応 不全の状態に近いように思われる が、汚染度が一層激しくなれば、 この適応不全の児童は飛躍的に高 率にみられるかもしれない。

喫煙は、個人個人について人工 的な空気汚染であるが、成人につ いての成績を引用してみよう。

タバコ喫煙者の調査では1日10 本までの喫煙では非喫煙者との差 はないけれども、1日20本以上に なるとピークフロー値および1秒 率の低い慢性気管支炎の発症率が 明らかに高まる。肺がんと喫煙の 調査では、1日10本までは差がなく、10~20本でやや高く、20本以上では2倍近い発症率を示し、40本以上になると3倍に近い発症率が認められている。またタバコ量が通算15万本以上になると、肺がん発症率が有意に多くなるとも報じられている。

大気汚染を、このタバコの害と比較するには慎重でなければならないが、大気汚染障害の長期的予後の面においては思いはかられないものがありはしないだろうか。

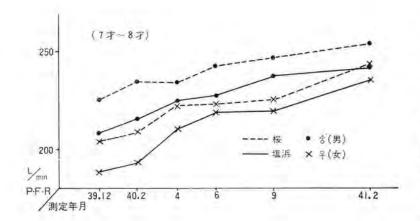
大気汚染地の児童の保健対策

以上学童の慢性的な気管支障害が判明してきた。その根本対策として、発生源対策や、工場地と住宅地の分離等の方法が具体化されつつあるが、解決までにはまだまだ幾多の曲折と年月を要するであろう。

さしあたって、学童保健という学校教育の中でとり 得る公衆衛生あるいは個人衛生は、どうあるべきであ ろうか。昨年来、塩浜小学校の中で保健対策としてと りあげてきた方法について列挙してみると次のようで ある。

- 1) 降下煤塵・亞硫酸ガス等の吸入を少しでも軽減しようとする方法
- a) 市街地始め学校内外の緑化および清掃
- b) 校庭の散水および教室の清掃, 特にふき掃除の

図4 ピークフロー値の追求(両校の比較)



徹底

- c) 教室へ「エアクリーナ」の設置 活性炭の多い ものがよい。冷房がついていないので、夏季は窓を明 けて使用している現状では効果は疑わしい。
- d) 大気汚染の激しい時刻においては屋外運動の制 限

大気汚染は、風向きによって大きく左右され、また 無風時には、逆転現象といって煤煙が地表へ下りてく る。時間的に早朝から午前9時ころまでは汚染度が高 まるので、朝礼を廃止し、また家庭では夏季の間は夜 中窓を開けて寝ることの制限

e) いわゆる公害マスク(黄色,活性炭入り)の着 用 実情では確実には実施し得ない。マスクをしての 活動は児童の場合ほとんど不可能と思われる。

2) 気道障害の発展防止

a) うがい回数を多くすることの励行

慢性咽頭炎の児童は極めて多い。 うかい液は各種の ものを使用して比較されたが、 明らかな差は認められ ないようである。 水で回数を多く行なうことを極力奨 めている。 1) の目的にも通ずる。

- b) 鼻じるを飲みこまない。 鼻をかむ。
 - c) 「かぜ」の予防 薄着および下着交換の励行とと もに、四季を通じて連日乾布摩擦 の実施
 - d) 「かぜ」の早期治療
 - e) 偏食の矯正とともにビタミンA, DおよびCの服用

肝油ドロップ1日1錠の服用を 指導してきたが、最近販売された 肝油ドロップCを推奨したい。ビ タミンAの作用については本誌で 詳しく紹介されているようである から触れないが、そのうち特記す べきものは粘膜の保護作用であっ て、特に気道粘膜の面積は広いので、これの慢性障害の疑われる際にはこのビタミンAの不足を来さないように心掛ける必要がある。

また、ビタミンDはスモッグによる紫外線照射の減少を補うという以外に、ビタミンD欠乏時には、特に気管支感染を来しやすく、またビタミンC欠乏時にも感染を起こしやすいから、これらの潜在性欠乏を防止して、気道感染の反復をいくらかでも予防しようというねらいである。

このビタミン補給で特に注意しなければならないことは、これらのビタミン類は、日常の食物からも摂取されているから、1日の必要量よりは不足に陥らないように、あるいは、やや多いめになるように補給するものであるから、連用する場合に過量にならないことが大切である。この意味で、このドロップの量はA、D、Cとも適量であるため、連日の服用を奨めている。日常診療上、すべての慢性気管支疾患にはこの方法を併用している。

f) 空気のきれいな郊外へなるべく出かけるように する。

きれいな空気、特に海よりも山を奨めているが、その間に粘膜修復を促進させる目的である。また、明らかに慢性的な気管支障害をもつ児童でも、夏休みの間の転住によって全く自覚症状が消失し、肺機能の回復する例が認められる。

- g) 慢性気管支障害の明らかなものには、根気よい 医療をも受けることを奨めている。
- h) 医療に反応しない症例には転住を この転住および転校によって改善された患者は相当 数にのぼっている。
- i) 学校保健室の中では、ビークフロー測定を各学期に1回ずつ実施し、肺機能低下児の早期発見に努め、 上記各項目の実施をより忠実に守るよう個別指導を行なっている。

むすび

大気汚染は工業都市のみの問題でなく,その他の都 市にも人口の集中化とともに自動車の排気ガス,暖房 用燃料等によって,気付かぬうちに広がりつつあると 思う。いなかへ行ってみても観光地だったり、観光地へのメーンストリートにある部落では、排気ガス、砂塵によって汚染されつつある。この地球上に起こりつつあるすべての型の大気汚染の中で、人類はいかに変ぼうしてゆくのであろうか。大気汚染の許容基準が従来いわれていた職場には適用されても、四六時中、老若男女を問わずに適用される基準の設定が急務である。しかも、個々の体質の問題をも考慮すれば新しい基準はさらにきびし過ぎるべきものであろう。これらが明らかでない現在、汚染地においては、殊に気道衛生というものが強調され、確立されなければならない。

学校教育の中でとりあげられた保健教育が家庭にまで浸透して、始めて真の保健対策が実施されたものと認められるべきものであるが、大気汚染地の中で、全国的にも代表的な塩浜小学校においては、以上にあげた各種の保健対策によって成果をあげつつある。1年以上にわたって測定されたピークフロー値を眺めてみても(図4)、塩浜小学校と桜小学校の差は少なくなりつつあるように思われる。

以上我々が現在行なっている汚染地における学童の 保健対策について述べたが、読者の参考になれば幸い である。



塩簑小学校では、公害地における健康教育施設の一つとして、今回建設された講像に、596万円の巨費を投じ、日本においては始めてという 写真のような集集機が装置された。

児玉先生ご指導のもとに、全校一丸となつて公害地の健康教育にとり 紙んでおられる尊い姿は、本誌24号に寄せられた佐藤校長の記事を参照 きれたい。(係)

学校給食栄養報告から見た ビタミン類の摂取状況について

北海道教育庁保健体育課主查

河 原 善 吉

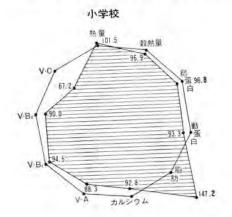
本年5月の無作為抽出校における栄養報告の実態は別表1のとおりです。

別表1

昭和41年5月分学校給食栄養摄取状況

The state of			44	熱	量	たん	白質	100	4.4-37	E	3	3	2	
小・中	K		分	総熱量	うち 穀熱量	総蛋白	うち 動蛋白	脂肪	カルシウム	A	B_{T}	B_2	C	価格
1	基	準	量	650cal	325cal	25.0g	10.5g	11.0g	350mg	875LU	0.60mg	0.60mg	35.0mg	円銭
学	摂	取	量	660	315	24.2	9.8	16.2	325	966 (772)	0.81 (0.57)	0.72 (0.54)	33.7 (23.7)	30. 53
校	基	準	比%	101.5	96.9	96.8	93.3	147.2	92.8	88.3	94.5	90.0	67.2	1
H1	基	準	量	850cal	425cal	35.0g	14.0g	14.0g	500mg	1,000I.U	0.70mg	0.70mg	45.0mg	1
学	摂	取	里	825	441	28.9	10.3	21.5	360	1,162 (929)	1.03 (0.72)	0.91 (0.68)	31.8 (19.1)	35. 45
校	基	準	比%	97.4	87.0	82.5	73.5	153.5	72.0	92.9	103.0	97.5	42.5	1

〔注〕 1. ()内の数字は、ビタミンの調理時の損耗量を除いた数量です。 2. 正10角形の基準栄養量を示す。

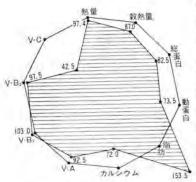


別表2 食品所要基準量に対する摂取量の実態

区分	食品分類	食品摂取 基 準 量	摂取量	比 率
小	脱脂粉乳	g 26.0	g 19.5	75.0
学	動物性食品	32.5	24.2	74.4
	いも類	55.0	25.7	46.7
校	野菜果実類	75.0	50.8	67.7
中	脱脂粉乳	g 35.0	g 21 4	61.1
学	動物性食品	40.0	31.2	78.0
	いも類	70.0	45.9	65.5
校	野菜果実類	90.0	62-1	69.0

このうちピタミンについて述べると次のようにいえます。

中学校



◆ 小学校

栄養摂取基準量に比べると、ビタミンA88.3%、B194.5%、B29%、C67.2%で、この数量は、いずれも調理時における損耗量を差引いたものです。

このビタミンAの中 10%は調理時にA剤を 添加しており、ビタミ

ンCについても摂取量の50%近くがC剤で補われ、ミルク、 おかず等に使用添加されている実情です。また B_1 , B_2 , Aについては、前述と別にペン用小麦粉に相当量のビタミンが エンリッチされています。

ちなみに、小麦粉 100 g 中のビタミン強化量は、ビタミン A500 I . U. B₁ 0.5mg, B₂ 0.3mgです。

このような栄養摂取状態を食品の摂取量から見ると、別表 2のとおりで、ビタミン源である野菜果実類、いも類の摂取 量がいかに少ないかが分る。

◆ 中学校

ビタミンでは、Cが著しく不足しており、献立作成に当って積極的な配慮が必要で、労力・経費等から、じゅう分な食品が使用できない場合は、ビタミン剤の強化も考慮して栄養内容の充実に努めていただきたいものです。

成増幼稚園の誕生

東京都成增幼稚園長

伴 安 文



今春、東上線成増駅北口から900mの地点、埼玉県寄りに 誕生したのである。 特に健康教育に重点を置いた, 東京都認可の近代的な幼児教 育機関を造った。

私が、園主田中氏から請われて園長を引き受けたのは39年 11月であったが、田中家34代目の当主が、広い農地の一部を 幼児教育のために提供して, 遅れている成増地区の近代文化 向上、日本民族の発展、人類の福祉等に貢献したいという決 意のもとに、私の教育理想顕現に要する土地と経費は責任を もって支弁する用意がある旨を語られたので、私は60歳を過 ぎ,教育経営の第一線を退いたが、田中氏の熱意に動かされ、 再び情熱を燃やして幼児教育に精魂を打ち込むことにしたの である。

1. 設営の準備

しばらく遠ざかっていた幼児教育についての法規に一通り 目を通し、古今東西の文献をたずねると同時に、東京,千葉, 埼玉の公・私立幼稚園を参観した。

また、文部省の大串施設課長や、全国の有力な同僚各位の 意見を伺って、日本における幼児教育の変遷、施設の現状、 そして今後の望ましい施設の在り方についての考えを整理し たっ

数多く参観した中で、小平市の若竹幼稚園、習志野市の杉 の子幼稚園等は実に興味深い印象を残している。特に若竹幼 稚園長三浦義雄先生(前学芸大学教授, 現竹早教員養成所長 兼務)には格別な便宜を与えられた。

若竹幼稚園における園主斎藤央氏を中心に、緊密な結びつ きをもった設計監督者, 建築業者等の人間関係の在り方は, そのまま成増幼稚園建設に活用させてもらったのである。

2. 設體申請と認可

日夜懸命の努力を傾けた百数十枚からなる成増幼稚園設置 認可申請書を、東京都私立幼稚園設置審議会に提出し、3月 11日に許可書が下付された。

その後約1カ年かかって、一応は私の夢を織込んだ建物が

3. 園長の略歴

長野県の善光寺平で半商半農の家に、9人兄弟の7番目と して生まれた私は、胃腸が弱く、兄弟中一番虚弱であったの で母親にも心配のかけどおしであった。

兄達3人が教育者であったし、両親も教育者になることを 望んでいたので、自分も小学校時代から初等教育者となるこ とを唯一の念願としていた。そして、やがては小学校校長と して日本で最も尊敬される仕事をする人物になろうと考え、 それには、生やさしい努力では目的達成ができない、まず健 康が第一であること、知性を最高に磨かなければならないと 決意した。

私は厳格な父と、慈愛深い母、そして兄弟愛に燃えた多数 の家族の中で育ったせいか、どんな苦労もこれを厭う気持ち は毛頭なく今日に至っている。

長野中学、青山師範、東京外語英文専修科等に学び、わず かの余暇にも心身の鍛練に意を用いた。

中学時代は、片道12kmを風雨雪にさらされて通いとおし、 卒業式では240人中ただ1人5年間無遅刻, 無早退の皆勤表 彰状をもらった。

講道館に入門して加納治五郎先生から二段を授けられ、い よいよ教育者としての教養を高めるため、まず体位の向上に 努めた。

台東区富士小学校教諭21年間を振り出しに、松葉小学校教 頭, 同校校長兼幼稚園長, 豊島区目白・駒込, 新宿区市谷の 各小学校長と39年間、文字どおり十年一日の如く過した。

続いて目白学園において、幼稚園から短大までの嘱託兼講 師、そして今春から成地幼稚園長となった。

思えば私の生活は児童・幼児の育成一本で生き抜いたもの といっても過言ではなかろう。この間には、文部省・東京都 または実業界からの要望にも目を向けず、初心貫徹のために あらゆる試練に耐えしのんだ、と同時に多くの方々のご協力 ご支援をいただき今日あるを得たことは本当にありがたいこ とである。

4. 保健活動の足跡

前述のように五つの小学校を経巡ったが、そのうち 昭和26年には松葉小学校

昭和28年には富士小学校

が東京都第一の健康優良校として、文部省、朝日新聞社、東京都知事、東京都学校保健会から表彰を受けた。

駒込小学校時代には、東京都学校給食研究協力校として、 「施設・設備の整わない所で、いかに望ましい学校給食を推 進したらよいか。」という課題で研修し発表して、都内はもち ろん全日本に公開したが、私が去ってまもなく、文部大臣か ら学校給食研究優良校として表彰された。

特に保健方面に関心が深かった私は、学校給食開設当初から、東京都学校給食会の理事や参与として、都内全校児童の 体位向上を期して最後まで働き続けることができた。

5. かくして健康優良校をつくった

① 教科, 道徳, 特活, 学校行事等の全分野にわたって健康の保持増進を図り, 実践し, 比較検討して教育課程を構成した。

校長の意図するところを全教諭が理解し協力するだけでなく、用務員、作業員、警備員等すべての教職員が一丸となって、自主的に、自己の職務を通して創意工夫をこらし、 最善を尽してくれた。

- ② 児童の発らつとした学習態度や、休憩時の遊びや運動を一目見れば、日頃の指導の努力が判然とするが、身体測定、健康診断等を通して、全体的直観的把握と、科学性に基づいて児童の体位の向上を知り、特に月々測る体重の推移は顕著な目安となった。
- ③ 小・中学校の義務教育では、どの教科も重要である。 その意味で体育に偏した教育はしなかった。
- ④ 教育者の健康が児童に及ぼす影響は大きい。それだけに教育者としての使命に徹し、節制と精進において望ましい示範をすべきであるとの考えから、全教職員の健康増進につとめた。
- ⑤ 全校こぞって自覚体育に精進するため、真剣な学習、 積極的には肉体の鍛練、消極的には日光浴、清潔保持、予 防注射、ミルク給食、肝油服用等に十分な配慮をした。そ の結果、児童の体位は他校に比し著しい好成績を示した。
- ⑥ 学校はその地域の文化センターである。学校の経営方 針が地域社会に浸透することは当然である。この意味で、 PTAはもちろん地域の人たちが積極的に活動するという

非常に好ましい方向に進展した。

以上のことは、平凡で簡単なようであるが、長年月営々と して、全児童の自覚のもとに成績をあげることは並大抵の業 ではない。文献をあさり、先輩に学び、同僚とともに毎日の 教育に厳しい自己批判を加えての積み重ねによって、はじめ て打ち立てられるものと信じている。

この経験と信念をもって、成増幼稚園長として園児の保健 教育を推進し、その批判をいただく機会を得たいものと精進 を重ねている次第である。

6. 地域の特殊性を生かした幼児教育

こうした私の今までの四十余年にわたる経験のすべてが、 新設された幼稚園における施設と運営の基底となっていることをぜひ知っていただきたい。

このような立派な施設設備は言わば容れ物に過ぎない。もちろん清潔で、生活しよく、美化されていることは望ましいが、教育生命は教育者と関児との魂の触れ合いによって、よりよい人間形成を図らなければならない。しかし十人十色の素質と環境に生きて来た関児を相手にして、好ましい方向に育て上げることは決して容易なことではない。精進する教職員の働きよい場を設定して、気長に一歩一歩踏みしめているのが現在の私の心境である。よい教職員を集め、よい教育課程を基盤として、それぞれの子供の個性を伸ばしていくところに、必ずよい結果が生じるであろうことを信じて皆を励ましている。

よい教師に来てもらうことは容易ではないので、特に園主 に依頼して幼稚園付属の教員寮を造った。各職員の魂のやす らいの場と、余暇を楽しむふん囲気を設定することは極めて 大切である。

全国の幼児教育者や幼児教育に関心を持たれる方々が参観 され、たがいに相より相助けて日本の教育を一層充実したい と切に願っている。

7. 園舎の概況

成増幼稚園は、埼玉県寄りの成増が丘の一角に、主要道路から100mほど入った至極閑静な、なだらかな 南傾斜の 畑地4000 m²の敷地にあり、四囲は畑地と森で、起伏した丘の景観はすばらしい。ここに 1080m²の南向き鉄筋コンタリート平家建の近代建築で、明かるく親しみやすい園舎がある。この辺は東京都内で一番空気がよいと言われ、ひばりがさえずり、鴬が鳴いて、静寂そのもので、太陽はどの部屋にも一ばい入り、うまい空気が思う存分吸える恵まれた場所である。

この丘の北側の低い田んぼは近く7万人の人口を探する街になる予定地で、地下鉄も間近を通る計画で工事中である。 ○保育室 4室(66~67㎡の広さ)

各室に水洗便所、水飲場と準備室、それに4畳の畳をしい てままごとや日本の礼法ができるようにした。

床はぶなパーケット、壁は練付合板敷目継、天井はゴール デンランダム、壁面には掲示板を広くとり、全園児の平面 作品を張りだせるようにしてある。その他立体作品入, 黒板, 遊具入, 園児の物掛け, 物入れ等を施設した。天井から自然光線を取り入れ, 換気の便を図っているので, 大変明かるく清潔で落着きがある。

- 遊戯室……保育室の中央に位し、198m²(中二階33m²)とした。
- ・玄関……園児用を広くとり、職員と来賓用は別に設けた。
- ホール ・流し場 ・用務員室 ・事務室 ・職員室と保健室 ・園長室 ・応接室 ・会議室 ・教職員便所
- ・浴場……瞬間湯沸器によって,そそうした園児を入浴させる。 ・園庭の倉庫と便所 ・各保育室に遊具、ピアノ, 絵本等は一とおり備えた。
- ・体育器材……園児の運動意欲を十分満たせるように特に配 意した。
- ・遊戯室……巧技台、跳箱、マット等
- ・園庭……砂場4 (3 m×6 m) 低鉄棒、固定円木 "ぶらんこ、雲梯、登り棒、滑り台、ジャングル等多種を多数に備えた。



グローブ ジャングルに興ずる

- ・33mの三輪車道路を2m幅に設けて、一般道路との識別や 安全交通の実践指導に役立てる。(表紙参照)
- ・トンネル付簗山 (滑り台付)
- ・花壇……園児自らの為すことによって学ぶものも設けた。

8. 指導

教育課程の指導に当っては親切を旨としているが、甘やかす意味は毛頭ない。月予定表、週予定表、そして日々の指導計画によってなごやかな中にも厳しゅくに指導を推進していく。健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画表現の分野から指導するが、常に相互の関連と、生活全体の指導に遺憾がないように心掛ける。性格形成の最も重要な時期に、生活の基本、例えば、手洗いの徹底、自分の生命を大切にすることは、他人の生命をも大切にせねばならないという民主主義の原理のしつけ、自然の驚異、金魚や小鳥の世話をしている中に多くを学び取り、音楽リズムや絵画表現を通して豊かな

情操を育成していく。

特に健康の保持増進に意を用いて、園児の世話をしながら、 家庭の食生活の改善に役立てようと努力している。 ミルク給 食や肝油ドロップの服用によって心身の発達を一層望ましい ものにすることを図っている。

具体を通して丹念に実践をくり返し、子供ながらも、それなりに理解して物事を処理する能力を身につけたいものである。

目 標

本園の教育目標は次の六項目に置いている。

- 1. 日常のよい習慣と正しい社会的態度とを養う。
- 2. 豊かな情操を養い、道徳性の芽ばえを培う。
- 3. 正しいことばづかいを身につける。
- 4. 自主自律の態度を身につける。
- 5. 創造性を豊かにする。
- 6. 思考力の芽ばえを培う。

9. 相共に日本の望ましい教育を強力に推進を

われわれ教育者は、日本民族の発展を期する使命を持って いる。民族の発展の基盤は教育にあり、人間の性格形成の最 も重要な時期は幼児期にある。幼児のうちからよりよい生活 を打ち立てたい。

現在の日本教育制度は受験中心主義であり、形が整って魂が入っていない。過日本園志願者の一母親は、本園で「受験準備をしてくれるなら子どもを入園させて欲しい。」と言ったので即座に断った。親が望みを達成させることができなかったから、せめて子供には十分勉強をさせようと、よい学校、よい学校へと競争していく。時には男性に対する不満や、利己的感覚が強い時代に育ったためか、世の総べてが学歴主義、出世主義に目の色を変えている。今日を教育不在と嘆かれるのももっともである。どうか一日も早く教育制度を受験中心主義を排して、豊かな個性適応の教育に切り替えたい。実力主義で人物を評価して、世に出て真に役立つような学問や教養を身につけさせなくてはならない。これは政治から、また経済環境からよくすることが大切であると共に、教育者の自覚と勇気と協調とを要する。

教育は教育するその人を得なければならない。真に教育の 使命感に徹し、教師自らの姿勢を正すことが肝要と思われる。 私は教育者は単なる労働者とは思わない。 ブラスアルファで あって、真に世の人々に奉仕する崇高な使命を自覚せればな らない。 そうすれば教権の確立、師道のこう揚が実現し、皆 から慕われる先生、尊敬される先生となるであろう。 そうし てこそ真の教育が存在すると考えている。 われら教育者は大 同団結して、現実の子供を見つめて共々に励まし合い助け合 って、その使命を達成させたいと切に念願し精進を続けるも のである。

下たい長の早見表について

富山県婦負郡八尾町 杉原小学校教諭 広 島 嘉 三

学習時における正しい姿勢の指導は、学習上、保健上、教 師としての重大な関心事である。

その障害の第一が机、いすの不適合である。

近年学童の身長が急速に伸びつつある結果、この悩みは一 層深くなっている。

机,いすの号数を決定する下たい長を,1人1人計測する 手数と時間を少なくする願いから、身長を計測するだけで下 たい長を知り(文部広報S.40.9.23付)の机,いすの号数を 知る早見表を作製した。

この研究は昨年発表したものであるが、本年もその正否を確めたところ、(7月2日計測)実測の差は1cm以上の差は全体の11.7%、そのうち2cm以上差のある者は全体の2%と、昨年と同一の結果を得たので、これを広く全国にその正否をご検討願いたいと考え、平素要読している健康教育誌に寄稿し、大方のご指導を仰く次第である。

下たい長の早見表

1. 2.	3年 用		4. 5.	6年用	
身 長 cm	下たい長 cm	新基準案 の 号 数	身 長 cm	下たい長 cm	新基準案 の 号 数
96.0~ 99.9	24	11	111.6~115.3	29	9
100.0~103.9	25	11	115.4~119.2	30	8
104.0~107.9	26	10	119.3~123.0	31	8
108.0~111.9	27	10	123.1~126.9	32	7
112.0~115.9	28	9	127-0~130-7	33	7
116.0~119.9	29	9	130.8~134.6	34	6
120.0~123.9	30	8	134.7~138.4	35	6.
124.0~127.9	31	8	138.5~142.3	36	5
128.0~131.9	32	7	142.4~146.1	37	5
132.0~135.9	33	7	146.2~149.9	38	4
136.0~139.9	34	6	150.0~153.8	39	4
140.0~143.9	35	6	153.9~157.6	40	3
144.0~147.9	36	5	157.7~161.5	41	3
148.0~151.9	37	.5	161.6~165.3	42	2
152.0~155.9	38	4	165.4~169.2	43	2
156.0~159.9	39	4	169.3~173.0	44	1

[注]

- (1) 新しい机,いすの基準案に いわれている座位基準点の 高さは、下たい長—1 cmで ある。
- (2) この表は、身長を知って、 (下たい長を実測せず)下 たい長を求める早見表であ る。
- (3) 実測との差異があっても、 1cm以内で、いすの号数差 の2cmからみて、姿勢には 大した悪影響はないものと みられる。
- (4) 実測との差異が1cm以上は 10%ほどあるから正確度は 90%である。
- (5) 実測が必要なものは、身長、体重、胸囲、座高のバランスのとれていないものの中から級中1~2名とみてよい。



健康と安全と情操

島根県能義郡広瀬町立広瀬小学校校長

勝 部 正 人

1. 校下の概要

国鉄山陰線安来駅(安来節の本場)から南へ8kmの地点, 平野部と山地部の境界に位置し,飯梨川(当地方二大河川の うちの一)の冲積台地に南北に細長く存在する町,これが校 下である。

戸数 1,181 人口 5,641

農林関係30%, 商工関係30%, 動人関係30%と職業が混在している。将来は中海新産業都市のベッドタウン的役割を持つ町である。

そのむかし、この町の名は富田(とだ)と言い、尼子(あまご)氏の居城地で、1521年から1600年にわたっては、山陰・山陽11カ国の大守として、その黄金時代を現出させた。ために、月山(がっさん)富田城趾(文部省史蹟指定地)をはじめ、数多くの史蹟があり山陰の鎌倉と呼ぶ人もある。尼子十勇士山中鹿介幸盛が少年のころ、月山城から西の方、三笠山上空にかかる三日月を拝して、「われに七難八苦を与え給え」と、立志修養した物語は余りにも有名である。

2. 教育方針

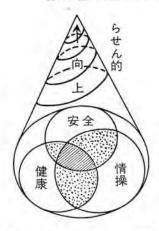
本校の伝統として脈打っているものは、幸盛精神の顕現ということである。三日月に祈った故事に因んで、校章は三日月を型取り、その他のあらゆるシンボルに三日月型が使用されている。「やがては満つる三日月であり、まんまるく、調和のとれた全人形成を願うもの」として考えられたのである。

この精神を受けて後を起こすカナメの役が校長であるが、 2年前の着任後間もなく、経営の基本方針を、標題のように、 健康と安全と情操の教育に据え置いた。 今日の教育界は、あたかも山の草焼きのように、あちらからもこちらからも火が放たれて、何々教育、何々教育と銘打って盛んに燃えている。その現象は良いことであるが、反省しなければならない点がある。それは、一方がさかんに燃えるとそれは一方が下火になり、勢いよく燃えたと思えばまもなく消えるということである。教育界はそうあってはならない。このような点を戒めながら最も必要にして、基盤をなすものを深く実践しなければならない。

小学校の教育では、ギリギリ何が必要であろうか、現状を すべて否定して最も原始的な教育を探すとしたら何であろう か、私どもは

それは、自らの健康を考える子ども、 自らの安全を守る子ども、

自らの情操を高める子ども,



をつくることであり、 これ以外に何もなく、 これに尽きるというの が本校の教育方針であ る。

しかし、いまだその 実績は低く、紹介する ものもないけれども、 本県における、学校安 全優良校、健康優良学 校、PTA文部大臣表 彰校となっているので その特色と思われるも

の幾つかを述べて、批判をいただきたいと思う。

3. 主体性を育てることが第一

子どもたちが、できているかいないかの尺度は、主体的学 習や行動ができるか、できないかということであろう。学校 での生活を喜び、意欲をもって学習し、目を輝かして集団活動をする。その源泉となる力、それが子どもの主体性というものである。その主体性をつくり育てるために、次の点に考慮をはらっている。

- ② 学習レデネスを重視する
- 回 子習的課題学習を基盤とする
- 学級通信(週1回程度)を通して、指導路線を単純化 (迷いを去り自信を持たす)する
- 学習予定黒板や学習課題ノートの活用をする
- 思 児童会活動, JRCボランティヤサービス, 美化少年 団活動の主体的行動を賞揚する

4. 健康や安全な生活をめざすことが第二

集団の楽しさは、すべての子どもが健康で安全に絶えず向上していくことであろう。ひとりひとりが、健康を考え、安全を守りぬく子として成長しなければならない。言いかえれば、健康と安全を獲得する子どもに育てるということである。それがためには、関心をよせることから意識を持たせる方向へと、学校の施策を進めることがたいせつである。本校では次のような点に特に力をそそいでいる。

の みがき運動

この内容は、歯みがき、体みがき(乾布まさつ)、床や 廊下みがき、机や壁みがきをさせ、心をみがき、意志 を鍛練することにも通じさせている。

季節によって、三みがき運動となったり、四みがき運動になったりして提唱される。

回月例マラソン

毎月一回(幸盛の命日である17日が定例日)3年生以上(1,2年は校庭で200ないし400m程度)が,自己の体力に応じてスピードを考え,1200mのコースを持久走する。着順位を合計し学級対抗の形で,優勝櫃を送られる。

② 月例諸検査の励行と健康ノートの利用

身長、体重はもちろん、疾病の発見予防のための健康 相談、継続的治療検査をして、その結果を健康ノート に記録し自覚を高め、積極的鍛練へしむける。

臼 健康優良児につづけ運動

過去に1名の準県一(女), 昨年は男子全国特選と女子 島根県特選, 本年は男女各島根県特選となった。学業 と生活態度の優秀さはもとよりであるが, 運動能力に おいて, うんとやらねばならない。

さあ、これを突破しようというので、走、跳、投、懸 垂に、自発的練習をしてその能力を高める。

邸 手洗いとうがいとマスク

手洗いの励行は当然である。食事前のみならず、作業 後の手洗いの徹底を期し、石けんの年間使用量はばく 大なものである。

掃じの時のマスクかけも、保健に対する身構えとして やらせている。

外から家へ帰った場合のウガイ、学校内でのウガイも さかんである。

◎ 学校給食と肝油

学校給食には毎食一粒の肝油が付されている。給食費はこれがためにわずかにかさむけれども、PTAも大養成である。五百数十名の子どもが、平等に肝油服用をするためには、学校給食との併用が一番効果的であると思っている。

⑤ 通学路の設定と集団登下校組織

町を貫ぬく県道は、ダム工事のための往来がしきりで あるため、裏道を主体とする55団体班の自治活動によ り安全の確保を期している。

・ 暗いところを明るく、危険個所をなくす

本校は50年を経過した老朽校舎で、建築様式も悪く、いたるところ暗い上に、危険校舎としての該当70%である。そのため安全点検には格段の意を払い、廊下の柱の目通り着色、足踏台等の着色、壁面の装飾に注意し、更に危険個所を表示した窓わくやガラス戸などを少ない経費ながら計画的に修理して、その保全を期している。

⑨ 学区内危険表示

主として、PTAの活動によるもので、橋、川べり、

山崩れ個所, 横断路などに表示し, 夏においては水泳 危険個所を表示する。そして, 子どもたちの注意を喚 起している。

5. ひとりひとりの情操を豊かにすることが第三

情操というのは、情緒が一定の傾向性をもって身につくことであると言われる。

学力をつけるにも、学級集団が充実するのも、情操化が進まなければならない。美的情操、知的情操、道徳的情操、宗教的情操の側面をいつどんな方法で啓培するか、これは容易なことではないが、教師の情操への指向を中核にして、次のような組織化と焦点化をはかっている。(項目のみ)

- 教科指導における情操的接点の発見をしてこれを指導 上特に力を入れる。
- 回 道徳指導における情操啓培に最も関連のある内容を生かし態度化する。
- 集団活動(特活,学校行事)において個で鍛えられた ものを練り上げると共に、集団でなければ培えないも

の, 例えば, 集団美, 集団規律等を養う。

前記のようなわく組の中で、情操化へ役立っている事項を 簡単に列記してこの稿を終る。

- ○子どもの悩みは意外に多い。カウンセリングによって 安定をはかり、学級経営に生かす。
- ○学級通信によって、子どもの活動を認めはけまし、迷いや不安を除く。



○庭園を利用して、全校朝礼をしたり、全校音楽をする。 古木や池のある庭園に全校児童が立ち並び、大空のも とですがすがしい心情を養う。



本校の健康教育について

宇都宮市立星が丘中学校

保健主事 螺 良 安 男

本校の教育の目標は「人間勘愛」が中核である。

- 1. 見識を育てる
- 1. 気慨を振起する
- 1. 勤労を愛好する
- 1. 感謝の心を養う

上記の目標を達成させるために、本年は次のような具体的 目標をかかげ実施している。

- (1) 体育を中核とした徳育・知育の完成
 - (2) 学校・学級の合唱合奏の効果的推進

体育を中核とした教育、それは「健康なからだ」を作り、

健全な精神の持ち主である生徒を作ることである。そのため に「運動クラブの活発化」を重点にしている。

現在本校では、男・女合せて15の運動クラブがある。各運動クラブは毎日放課後教師指導のもとに運動場・体育館で計画的練習を行なっている。

また、クラブに参加している人数は、全校生男女合せて 1077人のうち 673 人である。

参加している生徒には、学校・学級の指導的地位にあり、 学級・学校のふん囲気作りに活躍するとともに、各クラブと も優秀な成績をおさめている。 ◇サッカー部
 炒車区優勝・県優勝
 ◇車 球 部(男)
 炒車区準優勝・県準優勝
 ◇川 レー 部(男)
 炒地区優勝・県準優勝
 ◇バスケット部(男)
 炒車区優勝・県3位
 ◇バスケット部(男)
 炒車区優勝・県3位
 ◇ 地区優勝

上記の成績はほんの一例にすぎない。これらの成績をあげ 得られたのは、指導教師・学校・地域・父母が協力し、生徒 一人一人を「健康な社会人として育てよう」と努力した結果 である。



また、生徒の栄養についても、いろいろと問題となる点がある。その一例としてビタミン類の摂取量についてであるが、 現在不足しがちなものをどのように補充したらよいか。学校 保健委員会でいろいろ研究された結果、従来は希望者だけに 服用させていた肝油を、本年の1月から全校生に毎日2粒ず つ服用させることになった。服用するようになってから2か 月でその効果は、はっきりとは言えないけれども、次のよう なことが言えると思われる。

本年1月・2月の病気欠席(かぜによるもの)を一昨年・ 昨年と比較してみると約半数ぐらい減少しているし、また流 感のための学校・学級閉鎖もなかったのは、肝油服用の影響 かと父母・教師から感謝されている。

体位・体力については、昨年より向上している。昨年より 実施しているスポーツテストの結果は下記のとおりである。

昭和39年度と昭和40年度の級別合格者の比較について

			9	月	女			
			39年	40年	39年	40年		
1	級	合 格	2	5	4	8		
2	級	n	38	59	91	112		
3	級	"	106	117	142	216		
4	級	"	147	151	173	85		
5	級	"	142	98	81	73		

上記のように、各級の合格者を比較しても今年度は好成績

をおさめている。この原因と思われることは、運動クラブの 積極的活動と生徒の参加者の増加、体育館の完成、運動場の 整備、施設の充実、体育行事(クラス対抗の各種目の大会) の実施、組織の活用、指導計画などに力を注いだ結果である う。

安全教育にも重点をおき、毎月の第一木曜日を「学校安全 の日」と定め、学校環境の整備と美化、傷害の防止にあてて いる。また、登下校の通学コースの選定や自転車通学の許可 制と自転車の点検、交通安全教室の開催など実施している。

学校病の撲滅、寄生虫病などの予防駆除など保健面の指導 と管理を父母の協力、学校医・保健所の絶大なご理解によっ て着実にすすめられている。

父母だより

北海道十勝支庁中川郡本別村
本別小学校長 福 田 保 雄

41. 3. 8

本別川の、せせらぎも音高く流れ、葡く春が近づいた感が みなぎってまいりました。

昭和40年度も残り少なくなり、各教室から卒業式の歌声が 流れています。

学校では子どもさん方が、明るく健康な生活をするために、 種々の配慮をいたしています。学力の向上はなんと言っても 丈夫なからだよりと考え、昨年五月から *カワイ肝油ドロップ。の服用を奨めてきておりますが、その成果について皆様 のご意見を伺い今後の健康管理の指針といたしたいと考えて います。

管内的にみて感冒で休校、学級閉鎖等が、新聞紙上で報道されていますが、本校においては幸いにこの現象がありません。このことは子どもさん方の体力が相当に充実されているのではないかと思考されています。誠にご多忙中恐縮でありますが、下記の調査事項に忌タンのないご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

○肝油について

○健康上について

(口の中に〇をつけて下さい)

		14-21-0	-
	1	味が良い	
	2	食べやすい	
ĺ	3	甘すぎる	
ľ	4	ねだんが高い	

1	かぜをひかなく
2	胃腸の調子が良 い
3	便秘がなおった
4	しもやけや、ひび にならなくなった
5	目のつかれがな くなった

○肝油についてご意見,ご感想がありましたらお知らせ下さい。 (3月12日(土)まで担任の先生までお出し下さい)

41- 3-22

昭和40年度も残すところ数日になりました。卒業の子ども たちも、進級する子どもたちも、先生も、たくさんの思い出 を胸に秘め、今までの学習の確めに懸命の努力をいたしてい ます。

去る3月8日、カワイ肝油ドロップの服用結果について、 父母の皆様のご意見をお願いしたところ、快く多数のお返事 をいただき、子どもさん達に対する健康管理についての関心 の大なることを如実に物語るものと深く敬意を表する次第で あります。

その集計は次のようになりました。

○肝油について

(お返事をいただいた数 476)

1	味	か	良	L.s.		340	71%
2	食	ベ	P	す	6.1	388	82%
3	#	す	ŧ	る		31	7%
4	ね	だ	1	かい	高い	18	4%

○健康上について

1	かぜをひかなくなった	287	60%
2	胃腸の調子が良い	203	40%
3	便秘がなおった	86	18%
4	しもやけや, ひびにならな くなった	134	28%
5	目のつかれがなくなった	121	25%

この数多くのお父さん、お母さんのご意見の中から、もっとも特筆すべきは、北海道という、寒い地域に住む子どもたちの、おおかたがり患する「かぜ」に抵抗力がついたということです。諺にもあるように、かぜは万病の元といわれ、体力の消耗が著しいといわれています。

近来,とみに子どもの学力について、全国学力テストが施行され、子どもの学力向上について対策が立てられている現況であります。このテストについては、それぞれ全国、北海道、十勝の段階において分析されていますが、ただ単にその結果についてのみ論ずべきものでなく、その根本にあるものをよく究明すべきではありませんか。その一分野を占めるものとして、体力の増強ということは、学力を高めることに欠くことのできない要素と思います。

皆様の大切な子どもさんを、家庭、教師が堅く手をつなぎ 一層の前進を目ざしていきたいと希っています。おいそがし いところたくさんのご意見をいただき深く感謝いたします。

◆お母さんより寄せられた感想◆

・4年生くらいまでは、必ずといってよいくらいかぜで、2 ~3日は休みましたが昨年から、かぜをひかず、私と三女が 2月中ごろかぜで病院通いいたしましたが1、2年生のも5 年生のもやるのでないかと心配していましたが、全然うつら なかったようなので、ずい分体力がついたのだなあと感心し ていました。

今日、子どもにこの書面を渡されて見て、ああそうか、毎日のんでいる肝油のせいで、やせているが達者になったのだなあと、つくづくありがたく思っています。

・家の子は、とても偏食をしますので、学校で肝油を服用させて下さると、とても助かります。自宅で買ってのませるとつい無くなったとき、大儀したり、忘れていたりしますが、学校ですと必ずのませられますし、子どももおいしいといって喜こんでおりますので、このことは、ずうっと続けていただきたいと思います。

(たくさんのご感想がありましたが、紙面の都合でお二人だけにいたしました)

編集後記

会 このたび、健康教育刊行10周年号を発行するに当り、 文部次官として創刊号にお祝辞をいただきました田中東 京都教育委員会委員長から重ねてのお祝辞をはじめ、こ の道の先達大家各位からは、それぞれのお立場から、慈 味あふれる随筆を賜わり、花を飾り得ましたことを感謝 しております。

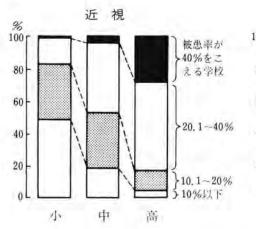
☆ とりわけ原島先生には、本誌創刊以前からの事情および、本号に至るまでの足跡について貴重な原稿をお寄せいただきましたことは、本誌と歩みを共にされた先生ならではの感を深くいたしております。

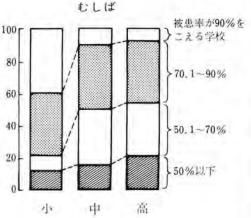
☆ 児玉先生の四日市市における大気汚染に関するご研 究結果は、まことに貴重なもので、近年焦点となってい るこの方面の対策に大きな指標となることと存じます。

会 その他,現場の第一線でご活躍の諸先生方からの幼・小・中学校の経営,健康教育、栄養問題につながる数々の研究調査の成果を収載し、読者各位にお届けできますことを喜んでおります。

☆ ここに、ご寄稿いただきました諸先生方と、再度に わたるアンケート等で、本誌の動向に尊い示唆をくださ いました読者各位に対し深甚な感謝と今後のご指導をお 願いする次第でございます。 (清水)







昭和40年度における定期健康診断の結果によると幼稚園から高等学校まではむ し歯にかかっている者が最も多く、いちばん被患率の少ない学校でも約86%の 被患率である。その次に多い被患率を示すものは幼稚園ではへんとうせん肥大、 小学校・中学校・高等学校では近視である。特に高等学校の近視は37%と被患 率が高い。

(昭和40年度 文部省学校保健統計調查報告書)

学童の健康づくりに!

品質本位の保健栄養剤

1 粒中 ピタミン D_V 3,000国際单位 給食強化剤

300国際単位

1ま中 ピタミン D2 ピタミンA 50,000国際単位 5,000国際单位



その他ビタミンB、含有のカワイ肝油ドロップB、ビタミンC 含有のカワイ肝油ドロップCもあります

製造発売元 河合製薬株式会社 東京都中野区新井2 丁目51-8

"ママの質問箱"

★愛育研究所保健指導部長 医学博士 松島富之助先生 ★お茶の水女子大学教授

医学博士 平井信義先生

これは河合製薬提供のラジオ番組で、毎日 毎日お家庭のお母さん方が、心をいためる お子さんの病気や教育、あるいはしつけな どについて、左記の両先生が親切にお答え くださいます ご利用ください

【各局の放送時間】

ニッポン放送毎日日間降日曜 身時指弁から 東海ラジオ放送 日曜毎分から ラジオ大阪放送

九州朝日放送 (北九州) ラジオ 中国

10 Big 25 分ッら 9時25分から

(以: 局) 北 放 (仙 台)

- 168A 1057 6 6